柁城

第八號

明治四十二年四月十五日發行

大隅加治木同鄕會

柁城雜誌第八號目次

口絵

○本會事務所より停車場を隔てゝ蛇尾嶽を望む

論説……一

○加治木繁榮策評論　烏子

○我村の繁榮策　湯田碧水

通信……八

○上海より倫敦　濱田精藏

○太平洋上　生駒生

雜纂……一三

○余が柁城の風景觀　別府雄川

○所謂大島觀　原田霜亭

○岐路に立ちたるヘラクレス　安樂生

○思ひ出の數々　壹岐半狂

詞藻……二六

○和歌○新派和歌

漫言……二八

○尊德翁と報德　松堂居士

雜報……二九

●年始會●島津男爵家の御慶事●紀元節の祝賀會●第一艦隊の入港と忠重公の御任官祝賀會●島津公の御通過●特志の殖林家●縣立加治木中學校落成祝●加中第八回卒業式●各小學校証書授與式●加治木の陸軍紀念日●加治木在鄉軍人會●郡農會の祝賀會●屠蘇整理講習會●蔬菜品評會●新舊郡視學送迎會●教育家の譽れ●曾木大尉迎送會●曾木大尉の講話●宮內杉田兩醫院の擴張●性應寺の上棟式●伊集院訓導の退職●本村各小學校教員の異動●藤安呉服店の賣出●本縣事務官の死去と新任●八幡宮の觀櫻會●櫻花盛りの雪●姶良郡歲出豫算書●長者議員の死去附縣下の多額納稅者●加治木驛狀況●電話開通●美事一束●各學校入學と卒業

讀者の聲……三九

○數件

會報……四〇

○會員の動靜

○本會の基本金寄附者氏名錄（第八回申込順）

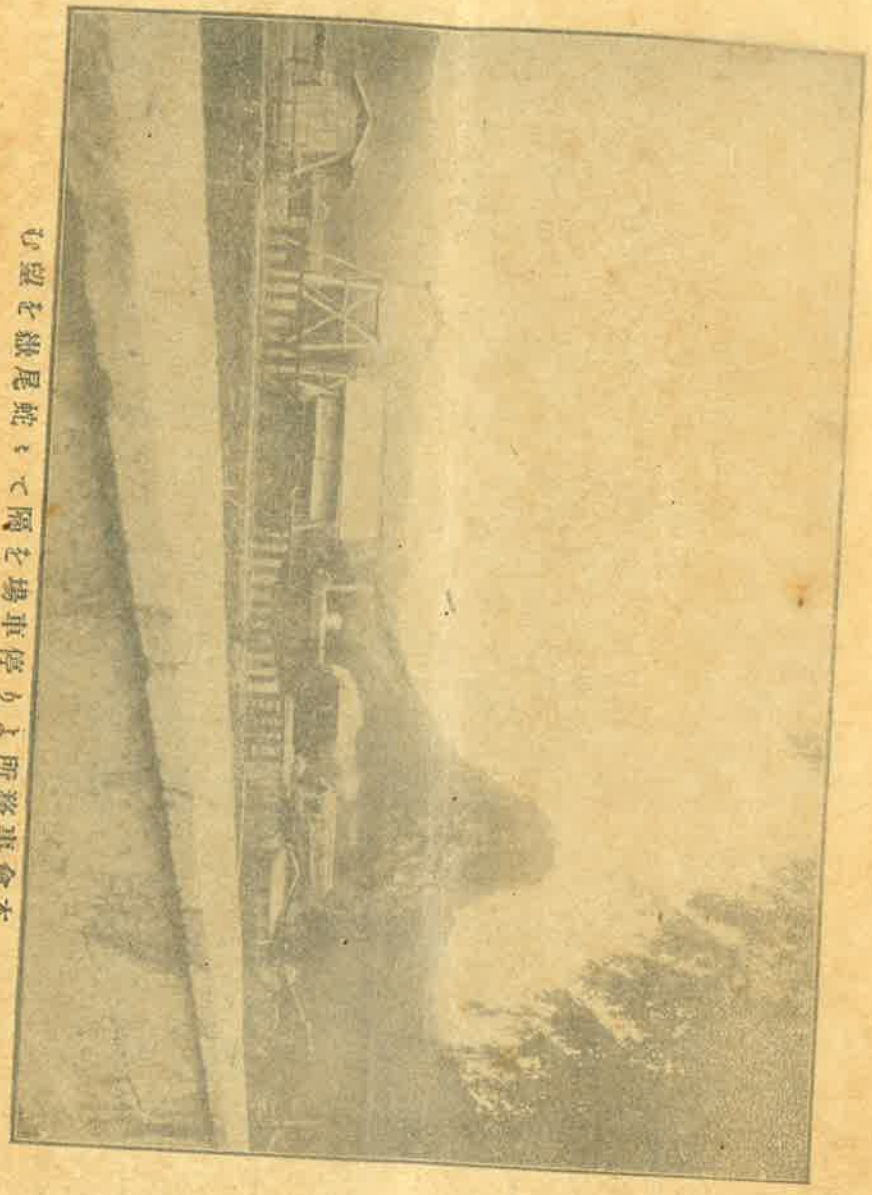
○雜誌代領收

○在外雜誌講讀者住所氏名（申込順其七）

○本會規則摘要

○寄贈書目

◉會告……四二



本會事務所より停車場を隔てゝ蛇尾嶽を望む

枕城雜誌第八號目次

口絵

○本會事務所より停車場を隔てゝ遠見樹を望む

論説……一

○加治木繁榮策評論　島　子

○我村の繁榮策　鈴木　生

通信……八

○上海より倫敦　渡田　精藏

○太平洋上　生駒　生

雜纂……一三

○余が枕城の風景觀　別府　雄川

○所感大島觀　原田　鶴亭

○社會に立ちたるヘクレス　安樂生

○世の通病の藥方　壹岐　半狂

詩藻……二六

○新歌○長歌○和歌

俳壇……二八

松堂　居士

○巻頭寄稿

雜報……二九

●平安會●忠魂碑建設●紀元節の祝賀會●第一艦隊の入港と忠重公の御任官祝賀會●島津公の御通過●篤志の殖林家●縣立加治木中學校落成祝●加治木の陸軍紀念日●加治木在鄉軍人會●郡農會の祝賀會●屠畜整理講習會●誌學品評會●新舊郡視學巡廻會●教育家の喜れ●竹本大尉巡廻會●會木大尉の講話●宮內七田兩醫院の盛況●性應寺の上棟式●伊集院測候所の設置●本村各小學校教員の異動●藤安呉服店の賣出●本縣農務官の死去と新任●八幡宮の觀櫻會●櫻花盛りの客●給與部歳出豫算書●長者議員の死去附縣下の多額納稅者●加治木縣狀況●電話開通●美事一束●各學校入學者數

讀者の聲……三九

○歎件

會報……四〇

○會員の動靜

○本會の基本金寄附者氏名錄（第八回中公報）

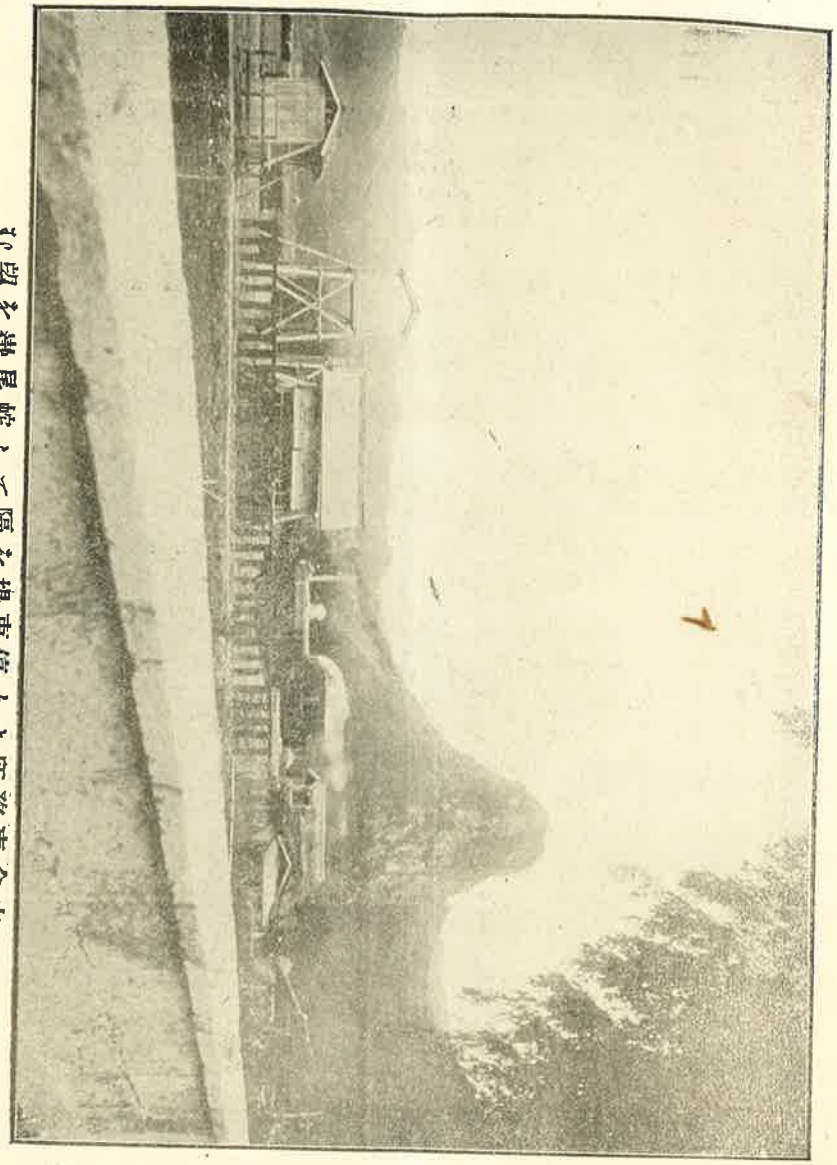
○海外發代領收

○任外新記錄讀者住所氏名（中公報第七）

○本會規則摘要

○著書目

◉會告……四二



本會事務所は停車場を隔てゝ遠見樹を望む

椛城雜誌第八號

論說

加治木繁榮策評論

烏子

前々號柳州君の批駁論及前號寒生君の意見は尠なからざる興味を以て之を讀んだ、両君の意見には贊成の處もあり否らざる處もある、余鄉を離るゝこと殆ど十年鄉里最近の事情に精通して居ない、從つて云ふ處肯綮に當らぬかもしれぬ、又両君の說を重複する處があるかもしれぬが聊か卑見を述べて見たい。

從來加治木が多少賑つて居つたのは二ッの重なる原因があつたからである、一ッは鹿兒島と北隅東北薩摩西北日向及人吉方面との間の貨物旅客の仲次取扱である、一ッは店頭若しくは行商に依りて村内及近村に日用品を供給する小賣商業である、其比例は各五分〳〵位のものであつたらうと思ふ、處が一朝滊車が開通して仲次になつたと云ふ譯で從來の繁榮原因の半を失つてしまつたのである、之は柳州君が既に述べられた處である、然るに寒生君は之を縱とし一より六に至る理由を揭げて主とせられたけれども之はちと牽强の縱ではあるまいか、元より之等の理由も重なる原因であらうけれども這は獨り加治木町特有のものにあらずして他縣は暫く措き殆ど縣下一般的のものである、若し肥薩鐵道の計畫がなかつたならば是等の惡点は存ドながらも尙幾分の繁榮を增し增さずとも維持して居つたに相違ない、加治木衰運の重なる原因は矢張り滊車開通なりと云はねばならぬ之は丁度東海道鐵道の開通に依りて昔の五十三驛がバッタリ立行かぬようになり宿屋や雲助が職を失つたのと

同トであるが、大局より見て致し方なき事と諦めねばならぬ、鐵道は恰も磁石の如く地方に分布されてあつた繁榮が開通と共に漸く両極若しくは數ケ所に集中する樣になるが例の樣である。

次に寒生君は加治木商人は上等の品物を安く仕入れて安く賣るを爲さずと云はれたが夫れは少し無理な注文ではあるまいか、ろれも實力次第では出來ぬことはない例へば小杉氏の藥種に於ける佐藤氏の肥料に於ける新名氏の砂糖に於ける直仕入をして優に鹿兒島商人に對抗し或は之に打勝つて居らるゝが、其他の商人に至つては大概鹿兒島より仕入れて來るのである、加治木町と中央市場とは第三者の關係である、鹿兒島は外樣加治木は陪臣である外樣と陪臣との喧嘩はちつと六ッかしい勿論喧嘩をやる位の氣慨はなくてはならぬが例令加治木繁榮の爲であるとは云へ算盤の玉を外れる樣なことは商賣人の立場として出來ることではない、今鹿兒島商人が仕入れるよりもより安く品物を仕入れようとするならば先づ中央市場の卸屋に對する資産信用の点に於て彼等に打勝つだけの實力がなければならぬ、今呉服屋の例を以て云ふならば岩元や山下などは大阪に仕入店を置いて機敏に仕入をやつて居るが加治木の呉服商にして彼等に對抗し得るものがあるであらうか、要するに寒生君の注文は或る二三の人々にはなし得るけれども其他の商人にはチト無理過ぎはせぬかと思ふのである、他の二より六に至る箇條は寒生君と至極同感である願くは之を積極的に改めて貰いたいものである、余は加治木中以上の商人に勸告する兄等須らく蜘蛛的商賣を止めて蜻蛉的商賣に移れと、蜘蛛は網を張つて虫のかかるをヨット待つて居る(網掛橋の名起る呵々)、處が其の虫が網の方に飛んで來ぬようになつてしまつた、ろれで蜻蛉の如く飛び廻つて虫を捕へて食べと云ふのである、彼の英國商人や吾國の江州商人が皆其流儀である加治木の例を以て云へば前記三氏の如きは皆夫れである、故に汽車が通つても少しも打擊を受けず却て之を利用して盛になつて行くのである、スバルタの一青年出陣に臨み刀の短きを嘲つ父叱して曰く刀短ければ一歩進み出でて額を斬れよと、加治木商人汽車が通つて商賣が御留守になつたと嘲つ、烏子勸めて曰く地不利なれば一歩進み出でゝ利益をもたらし來れと。

次に龍門問題に至つては余も柳州君と同意見である只同君の文章が少し奇激に失し居たるため胸を惡くした人

があるかも知れぬ、往々世間の實際に就て考ふるに温泉や花は多くの人を特に丸持ちを引付ける力があるけれども瀑布の御得意樣は學生若しくは雅客等餘り懷中の温くない瀑の水の如く冷たい人が多い、北米のナイヤガラなどは觀客が多いろうだが彼と是とは提灯と釣鐘である、有は無に優ること勿論であるけれども之に多少の設備をして見たところで瀑畔の飲食店と停車場の饅頭屋は少しはお蔭があるかもしれぬが策者が期待し居る程の効果はあるまいと余は少しの利益の爲めに俗化させたくないと思ふ、加治木は風景に富むと云はるれども夫は鹿兒島灣若しくは縣全体が富んで居るのであつて特別に加治木が富んで居ることを認めない、他に吾村より風景の好い処は澤山あるこんな事は暫く身を局外に置いて考へて見ねば判斷を誤ることはあるまいか。

次に寒生君の築港論に至りては不肖短才何程考へて見ても解釋することが出來ない、外國のことは能く知らぬが東京大阪對横濱神戸の例の如きは少し間違つては居るまいか、抑東京及大阪は昔より東西の中央市場で開國と共に益々百貨輻輳の場所となつた、けれども港灣の設備がない爲に大船特に外國貿易船を付けるとが出來ない、幸ひ東京の入口に横濱大阪灣の入口に神戸と云ふ天然の良港があつたからろこに船を付けて貨物を積卸し両地の間は重に艀曳船に依つて運搬せられて居つたのである、處が其間の運賃保險料及手數等が莫大なものであるから玄關で取次するよりは直ちに奥座敷に持込まうと云ふ處で大阪築港計畫せられ未だ半成品であるけれども滿韓方面に對する神戸の貿易が追々大阪に移るようになり又全ト理由を以て近來東京築港論が持ち揚つたと云ふ譯である、然るに加治木と鹿兒島との關係はろれと反對である鹿兒島は縣の中心市場で且つ灣の入口にある丁度東京を横濱に大阪を神戸に合併したような塩梅である、御主人自身が玄關に座り込んで萬事を處理しておいでなさるのに何の用あつてか奥の離れ座敷まで態々客を引込み來る必要があらうか、今加治木に築港したりとして其勢力範圍は何の位であらうか、一年何の位の貨物が集散するであらうか、汽船會社が態々寄船して呉れるであらうか、是等のことを少し客觀的に考へて見れば直きに分ることである、若し夫れ太平田築港の三池炭山に於けるが如き特殊の關係があるか又は大金持が採算以外骨董的にやると云ふならばいざ知らず普通商港としての望は殆どないと斷言するを憚からぬ、今之を實際問題として何の位の費用を入れたなら大概な港

が出來るであらうか義務教育延長に依り校舍の增築を要する費用にさへ少し困つた吾村の財政を以て單獨の力で出來るであらうか、ちと六つかしい郡の事業としては如何繰りろうにない縣費國費の補助を仰がんかろんな杜撰な計畫に贊成して呉れる樣な沒常識な議員がありろうにもない、尙一歩進んで港は出來ても停車場との間が大分離れて居るから其間の積卸し運搬に手數と費用がかゝる從つて貨物の價が高くなる之には臨港鉄道を敷設せねばならぬが鉄道院が地方の一小港の爲めにろんなことをして呉れるであろうか駄目なり、然らば卽ち寒生君の築港論の如きは一種のユートピヤ的書生論であつて今眼前に迫つて居る處の加治木繁榮策に應用の出來る議論ではあるまいと思ふ、ろんな妙な處に力瘤を入れずに港のことは鹿兒島に宜敷御願申上げて置いて否之を助成し之を利用する覺悟を以て加治木は別に加治木の爲すべき他の方面がありはすまいか識者の御熟考を願いたいのである。

要するに商業地としての加治木の將來は餘り有望でない只比較的資產ある人々が從來の小賣商業を中以下の人に讓り渡し身分は一歩進み出てゝ蜻蛉的賣込商業をやるならば例令人馬絡繹の昔しには復らずとも實質に於て得る處があるに相違ないと信ドて居る次第である、余は次號に於て加治木と工業と云ふ問題に就て少し述べて見たいと思ふ此問題に就ては余は元より素人であるけれども乞ふ隗より始めよだ當るも八卦當らぬも八卦素人談議が有志者の參考資料ともなることあらば幸ひである尙諸種の方面に亘る加治木の將來に就て會員諸君が遠慮なく意見を發表せられんことを希望する　（一月三十日記す）

我村の繁榮策

在米　湯田碧水

序論

片々たる一個の茅屋を造作するに方てや何人も之れが基礎の强弱を問ふものあらざるべし然れども天に聳ふるの大厦高樓を建つるに到ては先づ之れが臺石の剛堅を期せざるべからず鄕村の繁榮てふ一大建築物を作り上げんとするには先づ剛堅不拔の一大礎石を据へざるべからず然らば則ち其一大礎石とは何ぞ曰く村民の奮鬪心是也進取敢爲の氣象是也此の精神ありて始めて鄕村の繁榮を講ト致富を談ずべき也此の心なくして繁榮策を講ずるは畢竟砂上の空屋のみ決して有効なる劃策の企圖せられ得べきにあらざる也

加治木村の繁榮策を講ずる須らく先つ村民の奮鬪的精神を皷舞奬勵するの至緊至要なることは我輩既に前々號に縷陳せり今は專ら物質的繁榮方面のみにつき論ぜんと欲す思ふに我輩鄕を出でゝより既に五年世運の進歩又在鄕當時の比にあらざるべし而かも身は之れ天涯の異鄕に在りて遙に加治木村の繁榮策を論ずる恰も靴を隔てゝ痒を搔ぐの感なくんばあらず雖然我輩鄕村を思ふの情に至ては敢て人後に落ちざるを期す之れ我輩が非才を顧みず聊か所思を吐露して同鄕諸君の高敎を請ふ所以也我輩は今加治木村の繁榮策を議するに方り立論の順序を左の各項に排列し卑見を開陳せんと欲す

一、農　業　　二、商　業　　三、工　業
　イ製紙業　　ロ陶器業　　ハ鑄物業　　ニ製絲業
四、結　論

一、農　業

我村の農界を一觀するに我輩は現狀以上發展の望なきものと信ず枕城第二號に揭載せる我村の田畑耕地反別表に依れば我村の田地は六百四十七町三反余畑地五百十七町余両者合して總反別一千百六十四町三反余にして農家一戸に付耕地平均九反七畝五歩なり若し夫れ開拓の望みある未開墾地幾何と問はゞ何人も絶望の二字を以て答ふるに躊躇せざるべし然らば則ち我村の農界は殆んど極度に達し既に進境の望みなきものと斷念するの外なし農に於て發展の望みなしとせば農を以て我村の繁榮を講ずるの不可能なる敢て我輩の贅辯を要せずして然るべき也然らば則ち商は如何

二、商　業

我村の商界は鉄道開通後落しき打擊を受けしことは何人も非認すること能はざるべし從來我村の商家か得意客とせし姶良郡一圓並に伊佐郡及び北諸縣郡の一部は鉄道開通と共に鹿兒島に吸收せられたり旅客及び貨物の如きは單に鉄路加治木を通過するのみ鉄道開通前は穀類其他の貨物は一度は加治木に集まり更に海路鹿兒島に轉送せられ旅客の如きも交通不便の際は一時加治木に滯宿の止むなきも開通後は鉄路直ちに鹿兒島に到るを以て經費に於て時間に於て多大の節約をなすことを得之れ加治木村の商界が打擊を蒙りし所以也元來商業地として發展の望ある所は貨物の集散呑吐地として第一に地の利を得るにあり第二に交通機關の設備にあり我村は地の利に於て鹿兒島に劣る數等殊に鹿兒島と僅かに五里の近距離にありて不利の地位にある我加治木村が商業上發展の望みなきは我村民の等しく認知する所たるべきを信ず呉服反物類の如き鉄道開通以前は姶良郡及び伊佐郡北諸縣郡の一部の如き多くは我村商家の得意先たりしが開通後は鉄路直ちに鹿兒島に至り要事を辨ト得るを以て從來の購買力は殆んど鹿兒島に吸收せられたるものとす現に我村民に於ても少し高價なる反物類を求めんとする者は鹿兒島に至り購求するもの多しと聞く然らば則ち我村の商界は現狀を維持し繼續し得ば寧ろ幸也

三、工　業

工是我輩が加治木村の繁榮致富の途を講せんとする本問題の骨子也然らば則ち工業其物は如何なる種類を撰擇し如何なる方法に依りて工業の發展隆盛を企圖し以て我村の繁榮致富に資すべきか之れ實に周到なる調査と熟心なる研究を俟ちて解決すべき至要の問題也請ふ我輩をして左に其卑見を開陳せしめよ

(イ)製　紙　業

加治木紙は曾て縣下に聲價を博せしも近今の狀態は實に秋風落莫の感あり今や加治木紙の名は殆んど世人の記憶より忘れられたり此の如き斯業の衰退せし源因は種々ありと雖も要するに斯業者が改良進歩の勇氣に乏しく爲めに世の需用に遠ざかり遂に優勝劣敗の原則に支配せられたるの結果たるを信ず紙の需用は國民文化の度に比例すと云ふ想ふに交運の進歩と共に紙の需用は益々多かるべし我國の紙は和洋二種に區別せらる明治二十年頃より洋紙の輸入と共に和紙は漸次其區域を侵畧せられ從て其需用減退す然れども日本紙は洋紙の到底及ぶべ

からざる高尚優美强靭力に富める等の特長を有す去れば假令其需用を大に增加すること能はざるも品質を特選し固有の特長を發揮するに力むるときは和紙の美名を世界に誇ちしむるに難からざるべし統計の示す所に由れは美濃紙の如きは最近十年間に三倍の增進を示せりと云ふ和紙は獨り我東洋諸國に於て消費せらるゝのみならず歐米諸國に對しても遍く之を供給しつゝあり則ち本邦固有紙は其品質を精選し其特長を發揮するときは優に市場を擴張し得るに足る故に我村の製紙業を大に發展せしめ以て廣く世の需用に應せしめんとせば此に我村斯業者に一致協力製紙會社組織の急務を勸告せざるべからず如何なる事業も時勢の進歩に伴はざるときは劣敗者名を免るゝ能はず凡て個人的事業は多くは資力薄弱なるを以て改良進歩の實を擧ぐること難し改良進歩の遲々たるものは遂に優勝劣敗の原則に制せらるゝの外なし今や時勢は駸々として駿馬の走るが如く生存競爭は日を追ふて激甚也小を合せて大となし資力を豐富にし基礎を鞏固にし改良進歩時勢の進運に伴はんとするは之れ目下事業界の趨勢にあらずや望らくは我村の斯業者が時勢の趨向を洞觀し有力なる製紙會社を組織し以て製紙業の一大發展を企劃せられんことを之れ獨り斯業者の利益のみにあらずして我村の繁榮致富に資するの一大機關たるを信ず若し夫れ會社組織の方法は株式となすも可或は有力なる資本家に仰ぐも可也我輩は加治木村の製紙業者が世運の趨向に鑑み奮闘的決心を定め製紙業の發展に企劃し加治木村紙の聲價を天下に發揚せられんことを遥に切望する者也　（未完）

通信

上海より倫敦

濱田精藏

一月發刊の「柞城」に寄稿すべく曩に余は渡英の途上取敢へず上海より通信し置きたり上海より倫敦までは四十餘日の航程なれば其間記すべきもの少なからざるも記事の長きに失するを恐れ茲に其要領を記す可し、

十一月十九日楊子江口の夕景を望みつ我神奈川丸は支那大陸を右舷にし臺灣海峽に向つて進む、臺灣海峽は西北の風甚だ強く怒濤時に中甲板を襲ふ、少壯なる內外の乘客は皆上甲板に立ちて快哉を叫ぶ、恰も機關長ロバート、マン君來りて「此位の浪は何でもない」と語る、

香港

斯くて船は豫定より遲るゝこと約半日、二十三日午後四時ホンコンに入るホンコンは一小島の山復より山麓に連なりて建設せられたる純然たる歐風の市街として、ホンコン港は此小島と支那大陸との間に介在せる天然港なり、船長の談に依れば若しも同港が現在の如く時々猛烈なる暴風の襲來に逢ふことなくんば正しく東洋第一の良港と稱し得べしと、而かも同港の現に英國海軍根據地として重要の位置を占むるは云ふまでもなし、ホンコンにて最も人の注意を惹くはケンブル、カー（山を登る一種の電車）なる可し、之に依れば數分時にして約千八百尺なるホンコン島の山頂に達す可く、所謂分明の利器中の利器とも稱す可きか、ホンコンハ市街の躰裁より市民に對する衛生及び娛樂の設備等殆んど間然す可きものなく、遙々英本國より本地に來れる上下官民の人士をして思鄉の念を起さしめず永住の決心を以て各々能く其職業に尽瘁せしむるに至りし英本國政治家の苦心と手腕の程只々感服の外なし、

新嘉坡

船は二十五日ホンコンを發し三十日午前シンガポールに入る、冬期の航海なるに拘はらず、ホンコン出帆以來氣溫常に八十度を上下しシンガポール上陸以來の暑さは之を我盛夏の頃にも比す可きか、去れど此地が赤道を北に離るゝこと僅かに八十哩に過ぎざるを思へば

此暑さ固より驚くに足らず、市街の体裁はホンコンと同トく全然歐風なれども、一度郊外に出づれは到る處綠樹蔚蒼として、清影婆娑たる邊に容顏我日本人其まゝなる、マレー人の涼を容れつゝあるなど大体の風光我邦に髣髴たるものあり而して英國政府が今より七十餘年前、所謂海峽殖民地の首府をペナンより此處に移せし以來各國の人々潮の如く入込みて相互に人種を異にし習慣を異にし言語服裝また相同トからず、シンガポールは世界の縮圖なりとの評あるに至れり然かも此各人種の競爭場裡に日本人はと見るに例の醜業婦を除きては一の領事館一の三井物產會社支店及び一二の雜貨商店あるのみ、其勢力の振はざること夥だし、

古倫母

橫濱を距る五千八十哩、十二月十日夜船は印度セイロン島のコロンボ港に入るコロンボは日本英國間卽ち歐洲航路の約半程なり、翌早朝起きて甲板に出づれば豫て聞く「黑ン坊」の寶石賣レース賣、繪葉書賣の輩、早や既に犇々と甲板に詰め掛け、英語を以て買はんことを强ゆ、繪葉書の外顧みるに足るものなし、寶石に至ては眞僞甚だ疑ふ可し、コロンボ港は印度洋中唯一の港灣にして全然人工を以て建設せるものなるが故に港內稍や狹きの感なきに非ざるも諸般の設備は殆んど遺憾なし、

セイロン島及びキャンデー

コロンボより汽車三時間程にして有名なるキャンデーの地に到る可し、キャンデーはセイロン島の中央を貫ける山脈中、海拔千八百尺の高地にして此處に佛陀の齒を秘藏せりと稱する納齒堂なるものあり、眞に佛陀の齒なるや否やは固より知る可からざるも佛敎を奉ずるものは以て靈地と爲せり、船のコロンボ碇泊中同船の客と一行五名、暑を冒して此地に遊ぶ、納齒堂の內外は喜捨を求むる乞食僧の輩もしくは彼の袖乞の徒を以て充たされ、人をして一見嘔吐を催さしめ、所謂靈地をして一文半錢の價値なからしむるは惜しむ可し、去れど今のキャンデーのキャンデーたる所以は、綠なる山を以て環らせる水淸き湖水あり、氣淸く風常に冷やかにして一度此地に來れば忽ち熱帶の苦熱を忘るゝ一の好避暑地たるに在ること恰も我箱根の如し、而して全セイロン島の地たる苟くも熱帶の產物として殆んど產せざるなき其中にも、セイロン茶（我國へ向つても輸出さるゝ紅茶）は勿論讃嘆の如きも其產額は非常のものにて、近來また樟腦樹の栽培も漸次盛大に赴きつ

〻あり、遠からずして我臺灣樟腦の勁敵たるに至らん、我當局者の輕々看過す可からざる事實なる可し、英國が此セイロン島を全殖民地中最も重要なるもの〻一に數へ其開發に全力を傾注しつ〻ある所以を察す可し

印度洋、紅海、スエズ

コロンボ寄港の前後十二日間は日も月も浪より出で〻浪に入る印度洋の航海なり元來印度洋は歐洲航路中の難所と稱せらるれども船員の經驗談に依れば風波は四季を通じて穩かなるを例とすと云ふ、今回も極めて平安なる航海にして氣温も八十五六を以て最高とし敢て暑熱に苦しまず船中には又自ら消暇の法あれば十二日間の繼續航海必ずしも無聊に苦しまず、斯くて愈々進みて紅海に移り右にアラビヤの山、左にアフリカの地を望みつ船は悠々として熨せるが如き海上を行く時、西の方遠くアフリカの大沙漠に起りし軟風は東の方遙かにアラビヤの岸を吹くにや甲板の上涼味最も掬す可し、紅海の水紅ないならず、スエズ運河は案外に狹きも茫々たる沙漠を縫へる此一條の運河は正に天下の奇觀と評す可し運河は長さ約八十哩幅の最も狹き處は十一間に過ぎず、

地中海、伊太利大地震

十二月二十五日スエズ運河の出口なるポート、セイドを出づれば之より船は地中海の航海なり、地中海は我瀬戸内海の如く多島海にして景色最も好き處と聞きたれども沿岸を航行せざる我歐洲航路上にありてはポートセイド出帆後二日間は陸地を見ざるは勿論一の島影をも認むる能はず、二十八日午後初めて伊太利とシ、リー島を雲煙の間に認め、夕刻両地間なるメシナ海峽に入るメシナ海峽は東洋の汽船が西洋に通ずる一の關門たると共に両岸の風景も亦歐洲航路中絶好なるもの〻一なりと聞きしが船進みて愈々海峽に入るや海上には木片、材木並びに家具小舟の類夥しく漂流し、陸上には此處彼處に火焔を包める黑煙の盛に渦卷き上るを見るなど光景甚だ慘澹たるものあり、加ふるにシ、リー島の第一の都會と聞へたるメシナ市には此夜一の燈火をも認めず海峽を通過する航海者に取り唯一の目標たる、メシナ燈臺の如きも亦遂に點火せられず、形勢極めて穩かならざりしが、マルセーユ着後同地の新聞に依り、初めてメシナ市附近を中心として幾多の生命財産を壞滅に歸せしめたる、彼の大震災の起りたるの事實を確かめ得たり我神奈川丸は恰も此大震災の起りし夕刻此處を通過したるなりき、

マルセーユ以西

明治四十二年の元旦を佛國マルセーユ港内に迎ふ、マルセーユ港は港として殆んど完全の設備を有すれども其規模小にして今は既に時勢に伴ふ能はざるの憾みありと云ふ然るに我大阪築港は其規模マルセーユ港と相同じきを以て大阪築港が完成の曉能く時勢の進運に後れざるを得るや否やは大に疑問とせざる可からず、一月二日マルセーユを發し四日の夜月明に乘じてジブラルタール海峽を過ぎ翌日トラファルガーの海上にチルソン憤戰の昔を偲び浪高きを以て名あるビスケー灣も平穩に通過して豫定の如く九日午後七時いよ〳〵倫敦に入れり。

太平洋上

在北米　生駒生

横濱を十二月二十三日の出帆で海上は時節柄頗る險惡でありつた、顧れば芙蓉の峯は依然として千古の雪を戴き清高の觀秀靈の氣汪洋として神州に溢れている、此清靈の下に育ちたる船客一同は今更一掬の涙なきを得んのである恩愛の情油然として起り惜別の念痛切に堪へぬのである此間にありて指顧点々稍々之を久ふすれば身は早や既に太平洋上の一孤客……、

船は日本郵船會社の加賀丸で六千三百噸鹿兒島神戸間の汽船に比すれば殆十倍もある可なり大きものであるが茫渺たる太平洋に出づれば所謂太海の一粟である、船客は上中下各等を通して五十名内女子は三十名もあつた此の内二十五名は寫眞結婚に依りて渡米するのである降る亞米利加に移る大和撫子彼等の行末や如何ならん余は偏に彼等の幸福を祈るのである、船客一同は狹き苦るしき船中に永がの航海を千編一律に暮らすのは隨分退屈である其れとはなしに浮かれ出したる三味線に付けて歌ふあり舞ふあり、彼處に戯る者あれば此處に冗談、滿座の光景宛然一歌舞技座の如し、斯くて七日を過くる比晩景頓に變あり見る間に天の一方には黑雲飛び忽ち山の如き怒濤激浪船を嚙み轟々たる音天空を震撼して船体爲めに微塵に碎くる樣、荷物の轉覆するあり落下するあり其悽然たる光景筆舌の克く盡す所でない知らず一同の運命は、思へば風前の燈火の樣である。

一憂去りて一喜來る、陰晴定りなきは冬天の常か、かくて三日を過ぐれば晴天白日一望千里碧波茫々鏡面に

似たり午後に至れば天公六花を弄し忽ちにして甲板上白雪皚々宛然天の一巨人人界に躍り出でたらん樣吁昨日の悲觀にして今日の喜劇天候夫れ斯の如くにして人事の有無轉變又推して知らるゝのである、夜に入りては海上愈靜穩船は絶海の孤島に似たり、偶々甲板上孤影寂然逍遙する者あり、仰げば雲かゝる所半輪の月、伏せば蛟龍の躍るにも似たらん銀鱗の波、彼は此の天地の妙景に其の心琴を鼓せられたるか何事をか微吟して居る須臾にして彼は何事か思案すらん腕を拱き首うな垂れて、、、、、時は是れ明治四十一年十二月三十一日の夜彼は何事をか思案すらん此のうら寂しき甲板上に、、、、、、

明くれは明治の年も四十一の坂を打越へて太平洋上目出度も陽春一月元旦を迎へたのである、旭日東海の表に出でゝ万象爰に新なるを覺へ萬里波穩かにして天地の平和を知る、船客一同は東天遙に聖壽の万歳を唱へ奉り兼て各自の幸福に向て歡喜の杯を擧げた、夜に入りて紀念の爲めに演藝の興行あり曰く忠臣藏曰く曾我兄弟曰く鼠小僧曰く今色夜叉等幾十の演技は三日に亘りて擧行され其の賑々しさ團十郎や菊五郎の演し出づるにも勝りたらん樣、此の光景に一同は徒然も窮屈も苦痛も其他何ものをも忘るゝのである、此際油然胸中湧き出づる處の者は唯歡喜親愛の情のみである即妬心も邪氣も其他の惡念も去りて一一貧富も貴賤もなくに一一唯平等自由博愛の清福裡に包まれて居るのである、人間もこうなると實に見事なものである、若この光景をして人類一般の理想境たらしめば否か、

船は大海の奇顯や天候の妙象や乃至人間の感想や思案や歡喜や親愛や其他何等の出來事にも係せず一直線に目的地に向て進行するのである、折りしもわれ遙に見ゆる一黑影是れなん富の世界に冠たる黃金國！バンカーヒル上自由の鐘の響く處、老ひたりと謂ふ勿れ正義人道博愛の氣魂は山河至る所尙清新の觀ある米國十三州である、例令寒處に排日問題は起り我が同胞の迫害は聲のみは高くとも內外國論の趨勢は必竟道理の觀念に基ける眞正の歸結を得るのである而かり自由の建設者ワシントンの高德、人道の戰勝者リンコルンの正義は萬古依然として變らざるものあり、即ち船客一同は袖を連ねて此の天外の福音鄕に這入つたのである（終）

雜纂

余が柁城の風景觀

別府雄川

余此鄕に入りてより甚だ久しからざるをもて、習俗人情を觀る未だ精ならず、風景を賞する尙足らねば固より皮想の觀察の謗は免れさるべきも、事詳細に過ぐれば往々懷疑に陷ることあり、されば皮想の見、時に益なきしにもあらざるべきか、いざ他村人として觀たる余が感想を述べて、柁城人士の一讀を乞はんかな、

學者は人の心的現象を分ちて、知情意と分言ふめる、此三者、時代により又は學者によりて、偏重偏輕せられたり、而して感情は他の心意現象に比して頗る輕んせられたるの傾ありしが、近世に至りて感性の研究頗る進み、諸種の心的活動は實に感情の發動を其動機となすが故に感情は心的生活の中心現象なりと名づくるに至れり、

夫れ吾人の理性は眞を目的とし、意志は善を標準とし感性は美を極致とするものなり、されば吾人は常に善を味ひて、偉大なる品性を作り、美を需めて、優雅なる趣味を養ひ、又よく眞を悟りて、明敏なる知能を得、以て人格の統一を期せざるべからず、かく品性を修養するの策は多々あらん、古の聖賢に學び、今世の碩學に聽くも可、或はまた自已の努力に依りて之が修養を計るも可なり、而してまた自然の大觀、優美秀麗なる天然の樂園に眞を悟り、善を知り、美的感情は決して尠少にあらざるなり、佛人テイン曾て其著英國文學史中に論ずて曰く、人世の歷史を支配するには周圍、人種、時代の三要素ありと、これは今日名論として多くの學者の頭腦を支配せるものなるが、これに依りても亦氣候天然等の周圍が、人世に利害を與ふるを知るべし、余が柁城の風景を論ずるまた此天然美が柁城に影響することの少からざるを思へばなり

美學の鼻祖バウムガルテン曰く、最高の美は自然界にあり、藝術は之を模倣するにありと、吾人は氏の此說に全然贊同の意を表するものにあらざれども、また此言に依りて、自然が如何に美の要素に裕なるかを窺ふに足るべし、これ吾人が常に其美觀を味ひ、感性の涵養に資する多き所以なり、古より言はずや、山水秀麗なれば即ち偉人を生ずと、此言悉く信ずべからず、偉

人の出づる必ずしも好山水を要せずと雖も、また荒唐無稽の言にもあらざるべし、見よ風物氣候等の天然が如何に其民庶に影響を與ふるの大なるかを、印度アリヤン人種が迷想に耽るに至りしは、其風物之を然らしめしに非ずや、漢人種として實際的の人種たらしめしは、其天然之を然らしめしに非ずや、本邦及伊太利が美術國として世界に雄名を競ふも、亦其山水秀麗なるが故にはあらざるか、彼の廣漠たる西比利亞の山水は發して、豪傑成吉思汗となり、北米ミシシッピーの巨川は、溢れて大人華盛頓となり、我尾張の平野は裂けて信長となり、秀吉となり、薩南の秀景は、化して巨人南洲甲東となりしに非ずや、此等の偉人傑士は、徒に其秀景をとりて、心靈を養ひしのみにあらず、又よく之を跋渉し攀登して、其身體を鍛練したるなり、げに自然の偉觀は心靈の疲勞を醫する藥餌にして、肉躰の衰弱を恢復するの美味なりところいふべけれ、

風景の吾人に影響を與ふる、たゞに心身の上のみならんや、彼の土地の繁華に及ぼす影響は、蓋し莫大なるものなり、伊、瑞西は南歐に於て好山水に富めるの國諸外國人の此國に入る非常に多く、其國の受くる利益實に鮮少ならず、米のナイヤガラ又客を呼ぶ少からずと稱す、此他諸種の產業の隆替に多大の關係を及ぼすは吾人の呶々を要せざるなり、

我三州の粹氣蟠まりては霧岳となり、櫻岳となり、海門岳となり、溢れては錦江灣となり、池田湖となり、大浪池となり、地風景に富む、就中鹿兒島以北の沿岸は其最たるものならんか、文士天下の絕景と呼ぶものある、蓋し溢美にあらず、我佗城の如き亦其淨々たるものか、

佗城の勝地として、余は先づ指を佗城海岸と龍門とに屈す、其他日本山扇和園、蛇王岳の景等また數ふべし西、別府川の邊より、東、黑川の崎に至る所謂佗城海岸一帶の景は、余の最愛するところなり、前に錦江灣を隔てゝ靜なる櫻岳を望み、馬手遙に漂渺たる薩の山を望み、弓手に近く隅の山を控へ、蓋稀に見るの好景なり、

錦江灣千變一律の如しと雖も、實は然らず、白浪のよせては返すさま見れば、吾人は快濶なる感を催す、これ白色は雄壯の情を起さしむればなり、暗き青き海は吾人に沈鬱なる感情を起さしむ、これ青色は死色にして鬱屈を意味す、月光の吾人に淋しみを覺ゆしむるはこの青き光線を含めばなり、月光の映ドて黃金の波を

躍らしむるは、吾人に活潑なる感想を抱かしむ、これ黃色は赤色と仝ぐく暖色にして吾等に興奮を與ふればなり、色の吾人の感覺を刺戟する强弱は人によりて異るべく、又海の眺望につきて、各人の觀る所差別あるべけれど、彼の日將に沒し、暗雲天を蔽ふの時、澎湃として巨浪逆卷き來り、岩を嚙み石に激して、泡沫を飛散する程、勇壯なる沈痛なる景色はあらざるべし、この際の波の色彩を吟味するに、白の中に青味を含む、卽ち勇壯なる白に沈鬱なる青色を加味すればなり、

錦江の水は漫々たる太洋に比して、少しく豪壯の觀に乏しと雖も、また靜平に失し、取るに足らずとなすなかれ、畢竟自然を見るには方法あり、時あり、人若し豪壯なる錦江の水を需めば、疾風木を倒し、巨浪地を撼かすの時、其沈痛なる雄大なる姿を見よ、優美なる平和なる希望ある錦江の水を需めんと欲せば、靜穩なる海を捉へよ、其他四季によりて、海の眺望は大に異るべく、人の好む所によりて得らるべし、げに之を敲く大なれば、其聲大に、小なれば其音小なりとの古語は、自然の性質を表はすにも適用するを得ん、

櫻岳の景之を色彩の上より見、單に綠色の一點張となすなかれ、細かに之を觀察すれば、其色黃に近きあり、赭に似たるあり、青に類するあり、其濃度に於ても、又千變万化なり、吾人は一の色彩同一の濃度に彩色せらるゝを見る時は遂に嫌厭の情起れども、山を望み峯を仰で、かゝる念起ることなし、これ山は一見綠色とのみ見ゆれど、巨細に之を觀察すれば前に述べたるが如く、種々の色彩濃度あればなり、佗城より見たる櫻岳は距離の上より、綠色を越えて青色に近し、これ櫻岳を麑城より見れば、比較的綠色なるが故、頗る優長の觀あるも、佗城よりは、かへりて沈靜に見ゆる所以なり、

櫻岳之を形態の上より見れば、重富以東佗城に至る頃迄を最美なりとす、されど雄大の觀は、之を麑城及其以南よりの觀望とす、是れ麑城よりは、峯廣く古昔活動の痕跡見はれ、恰も武士が戰場に負傷したるの觀あるも、佗城よりの觀望は、峯狹く活動の痕跡見る能はざるに依れり、約言すれば、麑城よりの櫻岳は壯大なり、優長なり、佗城よりは優美なり、沈靜なりと稱すべきか、

人若し海岸よりの櫻岳にあきたらずば、海を渡りて之に攀登せよ、攀登して以て其偉容を飽喫せよ、

自然が人間の心靈に多くの影響を與ふるとせば、雄偉なりと稱する麑城の風景は偉人傑士を產すべく、優美なる柁城の景は、文學者藝術家を出すべきか否か、龍門瀧は是れ柁城人士に雄壯の思想を鼓吹する重なる源泉なり、其高さ大さより言へば甚だ勝らずと雖も、其位置に於て、距離に於て、普く多數の耳目に觸れ易きが爲に、瀧の息を吸ふもの多し、これ瀧の感化柁城人士に多しと見ゆる所以なり、

飛下數丈、水激しく岩石を嚙み、泡沫飛んで四方に散ず、仰いて之を望めば、水勢大なる處は、恰も幾條の素練を流したるかと怪まれ、其小なるものは、恰も木の葉に積れる雪の大塊の絕え間なく落ち來るかと疑はれ、神飛び魂往く、其景美なりと言はんより、寧ろ壯なりと稱すべく、之を眺むる時の感想は、親愛の情にあらずして、畏敬否喝仰の念なり、

瀧之を色彩の上より觀、又形態の上より眺むるも、優美にあらずして、壯大なり纖麗にあらずして雄偉なり約言すれば龍門瀧は之れ柁城人士に雄大の氣風を與ふる源泉なり、櫻岳は之れ柁城人士に優麗なる思想を鼓吹する基点なり、此他蛇王岳の及ぼす感化は龍門瀧に類して小なる者なるべく、扇和園の與ふる影響は櫻岳のろれの小形なるべし、

然らば是等の風景は、柁城に如何なる影響を與へしか足利の末葉雄諸國に割據し、虎視眈々、大は小を併せ、強は弱を呑み、君臣義なく、父子親なし、士たゞ武を之れ重んじて、また文事に親むものなし、此時に際し我文學を掌りしは、これ五山の僧徒なり、五山の學は桂庵に依りて西漸し、一たび薩摩に入り、彼幸運兒藤原惺窩亦之を繼承したるなり、後江戸時代に至り文華燦然として輝くに至りしは、其源實に薩摩文學にありしなり、薩摩文學は卽ち桂庵の入國に依りて大に光輝を放ちぬ、桂庵學を月渚に、月渚之を一翁に、一翁之を文之に、文之之を如竹に傳へ、益殷賑となれり、薩の國、上侯伯より下士人僧侶に至るまで、靡然として之に赴けり、桂庵や、文之や、如竹や、これ皆前述の景に育ちしの人にあらずと雖も、又麑城若くは柁城にあるの日、この好天然が彼等の心靈に多大の印象を刻みしことは、決して想像するに難からざるなり、殊に彼等を聘して、一國の文教を振興せし英主は、畢竟この天然の精靈を飽喫せしの人ならん、下りて柁城近世の英主錦水公が、瓊山冬日等の碩儒を聘して、育英館を起し、文教を盛にし、柁城文學否薩摩文學！延い

て日本文學！の根底を築きしは、最顯著なる事蹟なりとす、これ等の君臣皆柁城に生れしの人にあらずと雖も、かくも文教の隆盛を致せるは、柁城の江山も與りて亦力あるべき歟、飜りて現代の氣風を觀察せんに、柁城人士は果して柁城海岸の景に私淑して優美の風あるか、將龍門に感應して、豪壯の氣あるか、或は此兩景を攝取して、優美豪壯の氣象を兼備せるか、余未だ其詳細を學ばず、ただ余の知れる人士に就きて、青年に就いて少年に就いて觀察するに、優美なる溫和なる人に乏しからずと雖も、概するに活潑なる勇壯なる人多きに似たり之れを學生の氣風に見るに自信に富む、果して然らばこれ櫻岳の景に親むに非ずして龍門の水に私淑するには非ざるか否か、余曾て柁城の勝地は何處を最とするかと多くの人士に問ひしに其答は櫻岳にあらずして、龍門にありき、之を以て一般人士の心の向ふ所を知るに足らんか、余以爲らく活潑豪宕の氣風は人の最要する所なり、若し國民にして雄大の氣象なく、勇敢なる進取の心なかりせば、我國の前途殆んと云ふべし、然りと雖も、他方に於て優美なる心情をかかば活潑は轉ドて粗暴となり、雄大は變ドて慓悍となり、遂に冷酷なる人と化了せん、

柁城海岸の景優美のみにあらず、龍門の景壯大のみにあらずと雖も兩景各主とする處あるは前述の如し、余は柁城人士がこの兩景を等しく玩味し、咀嚼し以て感性を養ひて、優雅なる趣味を得るに努力しつゝあるを疑はざるなり、

西哲曾て言へり、肉躰を養ふには食を以てし、精神を養ふには書を以てすと、現今の世、生存競爭の結果、生活難は至る處に叫ばれ、人〻たゞパンを得るに之れ急にして、精神を養ふの遑なきもの比々皆然り、固より精神の慰安を得たりとするも、肉躰の饑ゆるは堪ゆべきにあらざれど、たゞ肉躰を養ふのみを是れ事とし精神を養ふを知らざるは、之れ所謂パンの外糧なきものにして、人生の一面を知らざる憐むべきの徒と云はざるべからず、

故に吾人はかねて職業に忠實に、又よく精神に糧を與へざるべからず、精神を養ふ豈にたゞに書のみならんや、自然の大觀可なり、藝術の園生亦可なり、此意味に於て、余輩は柁城に於て直接若くは間接に風景を觀賞する爲の施設を欲するものなり、

現在に於ての龍門瀧を觀賞するための施設は、頗る尽せりと雖も、尙完美なりと稱すべからず、觀瀑のため

の施設は勿論、觀客に對する諸種の便利を計り、或は盛に四季折々の花草を栽培し、一面濠を以て客を引き、他面花草を以て人を招くに至らば、其一般人士に與ふる慰安は勿論、椛城の爲めにも利するところ少からざるべきなり、

椛城海岸の風景を觀望するために施設は未だ着手せられず、この景假令今日に至るまで、他よりの觀客乏しと雖も　これに適當の方法を施し、一般人士をして、この景に私淑するの機會を多からしめば、其椛城人士に與ふる影響は或は龍門に讓らざらんか、余は椛城の幸福を願ふが爲に、又一般人士の心靈に好影響を與ふるを喜ぶが爲に椛城海岸に倶樂部の如き建物を設けて有益なる諸集會の用に供し、他面觀賞の便に備へば其効蓋し少からざるべしと思ふや久し、有識の士以て如何となす、

之を要するに、余は決して風景輒能主義を皷吹するものに非ず、されど常に自然が人生に與ふる影響の頗る大なるを思へり、今此風景に接し、又椛城習俗の一般を窺ひ、二者の全く無關係ならざるを感ト如上の說あり、若しこれ一般人士が益この好天然を利用し、一面實利的に之を經營し、他面之に親みて、心靈の向上を計らば、物的椛城に錦上花を添ふべく、心的椛城に今一しほの光彩を增すべき也、

所謂大島觀（二）

原田霜亭生

◎商業　一般商家の外會社組織のもの二、運輸を業とし資本金貳拾萬圓を有するも、大洋商船會社の有利なる外他は至て振はない、

郡外輸出貨物は價格百參拾五萬四千餘圓で、同輸入貨物は九拾七萬八千餘圓と郡當局者は計上して居るが、單に名瀨村竹之內、川井田兩商館に於て輸入年額六拾萬圓を下らないと云へば、實際に於て輸出入額は殆んど大差なしと見てよからう、商品の重なるものは輸出の側で砂糖、油、鰹節、椎茸輸入の側で白米、石油、素麵、吳服物など其の最多量を占めて居る、

◎金融　金融機關としては我が浪速銀行支店あるのみで、預金は五萬圓より拾貳參萬圓臺を昇降して居る、銀行爲替金高は仕向口が約五拾萬圓被仕向口が約貳拾萬圓で、同行昨年度の出納高は收支殆んど六百萬圓を計上して居る、

郵便爲替金高は振出に於て約五拾七萬圓拂渡高に於て約五拾壹萬圓の巨額に達して居るが其多くは郡內各離島間の納稅金である、郵便貯金は二万七千余口で拾萬九千余圓とは貧乏島のばこるべき一現象であらう、

◎交通　道路の延長縣道で三十六里　橋梁が五十三ヶ所、里道で二百七里橋梁が百六ヶ所、概して險峻車馬を通ずるに足るもの殆んど皆無である、

船舶の出入も可なり頻繁で大阪商船の二見、宮島、平壤、馬山鹿兒島郵船の沖繩、金澤、薩摩廣運會社の廣運大洋商船の新不老、仁壽丸等が定期に航海して居る、航海度數は每週二三回の割合であるが、時には天候險惡の爲め一旬杜絕し不便を感ずると頗る多大侍ち焦がれた折角の新聞記事もはや舊聞となつて讀む氣にならぬこともある、郵便の發信は年約九十五万通で着信百五十六萬通、電信は着發共六万內外である、

◎宗教　說教所は西本願寺の別院が一、天主公教會の布教所が五ヶで前者は宮崎の產財部淑心といふが熱心に地獄極樂を說き后者は佛國の宣教師フレスノン外數名が盛に十字架振り回はして居る。近來天理教殿とやらもソロ〳〵御出ましに相成り、柏子木や大皷の音が朝な夕な調子よく響き渡つて居るのはマア御目度いのであらう、

◎教育　學齡兒童は男一萬五千六百女一万三千五百、就學の步合は男九十九、三女九十七、七で學校の數は尋常科八十二尋高併置十七、收容生徒は尋男一万二千六百尋女九千六百、高男一千六百、高女三百五十名、教員の數が男四百三十四女百二十一名である、

實業學校は甲種農學校一、乙種農學校一、實業補習學校十ヶ所で教員は男三十八女十一名生徒は男三百十女四百六名である、

◎衞生　殆んど御話にならぬ、名瀨に縣立病院が在つて院長に醫學士を頂いて居るが、何だか之れでも心細い感ドがする、公衆衞生と來ては其不行屆さ加減吃驚の外はない、此の地で少し念の入つた病に冒かされたが最後往生極樂をあきらめねばならぬ、

◎財政　四十年度の租稅負担額は國稅四拾八萬五千餘圓縣稅四萬貳千圓村稅拾九萬五千六百餘圓で一戶の割當額貳拾參圓七拾七錢一人當參圓九拾四錢とは生產額少なる島民の負担としては頗る非常の重荷である、

大島々廳所管國庫歲出府縣貳萬九千四百四拾餘圓大島地方警察費壹萬四千貳百參拾參圓で縣稅六萬五千四百

五拾餘圓同歳出五萬貳千八百七拾五圓餘村歳入貳拾六萬九千參百六拾壹圓餘同歳出貳拾五萬七千七百六圓餘である、

尚此の外縣有財産として土地八萬六千八百餘歩建物千二百四十四坪、船舶二、馬一、牛三、豚五を有し村は全島十六ケ村を通ずて其基本財産有價証券並に現金で八萬壹千六百貳拾五圓餘貸付金六萬四千七百餘圓土地建物七拾壹萬七千參百餘圓を有して居る、

◎議員　衆議院議員一、仝上有權者數一千二十、縣會議員五、仝上有權者數五千七百六十二、村會議員百四十六名である、

◎産業組合其他　販賣組合六、生産組合十三、購買組合四、重要物産同業組合二、水産組合一都合廿六個であるが其内大島郡販賣組合は組合人員六千二百人を有し出資口數七千八十二、砂糖賣買を目的とし盛んに活動しつゝある、

大畧前述の通り大島の生産額は四十年度に於て農産、畜産、水産、林産、工産を合し實に五百五拾壹萬九千五拾五圓を計上して居る、今之れを一戸に割當つれば百八拾壹圓五拾五錢九厘餘となり之れを一人に割當つれば參拾圓拾壹錢八厘餘となる、併し同年度の公課額が七拾貳萬貳千五百參拾五圓で之れを一戸に割當つれば貳拾參圓七拾六錢九厘餘となり之れを一人に割當つれば參圓九拾四錢參厘餘となるので、實際一人の收入は勿驚タッタ年額貳拾六圓拾七錢五厘月收貳圓拾八錢とは隨分苦しい生計をいとなまねばあらぬ勘定である、之れで郡の經濟に些の餘裕のないとも從て島民の貧の程度も畧推し計られるではないか、如此貧乏島に於て銀行を經營する吾人の苦心も亦一と通りでないとは御察しが着くであらう

（終）

岐路に立ちたるヘラクレス

在東京　安樂生

ヘラクレスの希臘國キラロン山に在りし頃、彼は既に幼年時代を經て青年の域に達し、始めて將來を考察すべき齢に達しけり。或日彼は牧人と畜群とを離れ、獨り寂漠たる處に趣き、靜かに腰打ち掛けつゝ眞面目なる思に沈みて、將來は如何なる生路を取るべきかを熟慮してありけるに、婀娜たる二婦人の已が方に來るを見ぬ。其一人は風采高く威儀正しくして貴族の生れと覺ぼしく、體の清潔なるが身の飾となり、眼は謙遜の

德を示し、態度は優容の法度を表はし、衣服清淨にして一の汚点だもなかりき。他の婦人は躰質優柔にして眼大きく、顏に粉黛を施して花の如き美貌は人類自然の域を越え、雪を欺く其肌、艶たる其容姿、此世のものとは見えざりき。得意顏にて其身を顧み又他人の我を見るものなきかを注意せり。前の婦人の靜かに歩を運べる中に、此婦人は急きてヘラクレスに近づき話して曰く、妾は今汝の取るべき生路に惑ふを知る。汝若し妾を選びて友とせば妾は汝を導きていと愉快なる道を行かん、此道にては汝は凡ろ快樂てふもの悉く嘗め盡さゞるなく、困難苦痛毫もなくして生を終ふべし。戰爭職業の如きは汝の憂ふる處にあらず。唯汝の一生に於て心を惱ますものは、飲食に於て最高の美味を感し目を樂ましめ耳を喜ばしむる最良法如何の問題にあるべし。若しこれかゝる境涯に達するまでの方法に至りては身心の勞を取るにあらず。困難危險を犯すにあらず。即ち他人の勉勵によりて得たる結果を利用するものなり。されば汝に利益あるもの一も不足するものなかるべし　かゝる自由は妾が妾の友人に與ふるものなかし

ヘラクレス斯く聞き終りて、汝は誰なるか名乘りよ、と問ひければ、妾の友人は妾を呼びてふく子（福）といひ、妾の敵は妾をけなしてつみ子（罪）と呼ふ、と答ふ。去る樣に他の婦人は近寄りて申すやう、妾は德子と呼ひ汝の両親を識り又汝の性質教育をも知ればこそ此處には來つるなれ。妾の道を選ひ給はゞ汝は善良偉大てふ野に於て良き開拓者たらん。隨つて妾も一層の尊敬を得るなるべし。妾は快樂てふ妄像によつて汝を欺くを欲せず神の掟に從つて有體に述ふべし。汝知り給へ刻苦勉勵なくして神は人に授け玉ふものにあらず。神の惠を受けんと欲せば須らく神を敬し、朋友の愛を得んと欲せば須らく其用を勤め、市民に敬せられんと思はゞ先つ有益なる行をなし、汝の德行によりて希臘全國の賞歎を博せんとせば先づ其國の恩者たらざるべからず、五穀の豐穰を望まば耕作の勞の辭すべからず、家畜によつて富まんと欲せば此れが飼養を怠るべからず、戰つて勝たんと欲せば戰術を學び演習の修練を得ざるべからず・身體をして意志の向ふ所に從はしめんと欲せば辛苦艱難によつて鍛錬の効を積まざるべからずと。

此處に於てつみ子は忠言して曰く、いかにヘラクレスよ此婦人の汝を導きて快樂幸福の鄉に至らしむる道は

如何ばかり遠くして且困難なる事よ。妾はいと易くして且近き道を行きて直ちに彼方に達せん。

德子罪子に向つて曰く、不幸女よ汝は何の善をか有せん、汝は嗜慾の起らざる内にあらゆる快樂に飽き、飢えざるに食し渴せざるに飲む。故を以て樂しく味はんが爲めには巧妙なる庖人を求め、樂しく飲まんが爲めには高價なる美酒を求む、汝の柔軟を感すべき臥床なく、汝の眠るは疲勞によるにあらずして退屈によるものなり。汝は友人に敎ふるに豪遊夜を徹し晝間の大部は眠りて過すべきを以てす、故に汝の友人は幼時に於て力なく、壯年に至りて心識なし。青年時代は宴樂に耽りて老年に至りて困却を極む、既になし終りたる事には恥多く、今執る所の事には煩累を感ず。故に汝は不死者なるも神には放逐せられ人には輕蔑せらる。聞きて最も好ましきは自己に關する讚辭なり汝は未だ嘗てこれを聞かず。見て最も美しきは自己のなしたる善行なり汝は未だ嘗てこれを見ざるなり。妾はこれに反して神に交はり善人と親しむ、妾なくんば神人共に善行なし。妾は家主には忠實なる僕人となり家臣には最愛の輔助者となり、美術家には好助手として歡迎せらる。妾は平和事業の篤實なる關與者となり、戰爭に於ては確實なる同盟者となる、妾の友人は飲食睡眠に於て美味を感すること懶惰者の比にあらず。何となれば需要起りて後始めてこの樂を享有すればなり、彼等の幼者は長老の讚辭を喜び、長老は幼者の尊敬を好む。先きになしたる行爲を思出しては更に快樂を增し、今執るところの事業は喜んでこれをなす。彼等は妾によりて神に重んぜられ人に愛せられ國に敬せらる。彼等命を終るに至りしも人に忘却せらるゝことなく、後世子孫に歌はれ萬世無窮に亙りて祭典絶ゆることなかるべし。ヘラクレスよ汝は意を決して此生涯を取りろの最高の幸福を獲得すべし。

ヘラクレスは待つ間程なくして意を決し、德子の言に從ひ堅忍不屈の志を以て義務てふ險路を逍遙して遂に彼の幸福を得たりとなん。

ヘラクレスハ希臘國神話に於ける神と人との間なる半神半人の有名なる英雄にして、人間の勢力道德の理想として表はさる。彼搖籃の中にある頃より膂力絶倫蛇を殺し後ちオイリストイスに仕へて「尊き十二個の事業」てふ冒險を遂行したりといふ、此傳說たる古き希臘の神話にあり。今を距る幾千年の昔なるかを知らず。世は益文明に赴くと

云ふも青年時代心に起る惡魔の誘惑を受けて生路を過つ点に於ては今尙異なることなし。實にや眞理は萬世に亙りて變ることなしと。余は聊か思ひあたることありて飜譯してかくは記しぬ。唯校務多忙にして文飾をなす能はざるを恨むのみ。

思ひ出の數々

在長崎醫學專門學校　壹岐半狂

今日の世は實に日進月歩の勢であるが從つて此の世に一地位を得んと欲するには幾多の難關を通過せねばならぬ、これについては充分の困難を伴ふ、然らば此困難に打ち勝つべき第一の要素は何んであるか、取りも直さず健全なる肉体である、されど世が開明に赴くに從つて一般の體格が次第に衰へて來るのは誠に遺憾の現象である我が鹿兒島縣に於ても決してよい方ではない、これ果して何に原因するものであろーか、一々枚擧するの暇はないが一方面より言へば余り親が幼少時代に於て子を消極的に束縛する結果であろーと思ふ殊に一家の大切なる獨り息子や千金の子弟に多い、是れ等よし賊の爲に死せずとしても病魔の敵に斃さるゝ事が多い、例令鐵棒に下ると危い、野球は怪我をする、柔道も危い、ボートも危いと云ふ風で總べて何んでも消極的である固より是れ等の技術には幾分の危險は免れないが左樣に束縛した日には一向鍛練する道具はないのみか折角少年ののびゝとしたる精神も萎縮して仕舞ふ爲めに他の少年に比して活氣はなく自然かゝる遊技を厭ひ從つて筋骨は發達せず遂には天賦の能力を有しながらも成功に達するを得ないで只肉体薄弱の爲め嘉なき歎聲を洩らさねばならぬ人が實際今日の世の中に珍らしい事ではない故に少年は或る程度までは充分に危險も冒さねばいかぬ少くとも小學時代に於て此の氣を養成し中學時代にて是非鍛練して置かねば後日役には立たぬ。中學を出でし自分は專門の學校にでも入學したる日には相當に勉强すれば決して體を鍛練する餘裕はない、よしあつたとしても何づれの學校でも各技術に熟達した者が多いから元來此の方に經驗なき者は誰れとして進んでやりたきものではない、かく言へば余り體育のみに熱中しても學問此方を疎んずる傾向生ずてはは後の結果が覺束ないと云ふ問題になるが生は中學時代に於て學業の傍ら鍛練の余暇なき事は誓つてない事を斷言する、殊に不健全なる者は從つて腦の

働きも惡い余裕常に綽々たる者でなければ事に當りて完成する事は出來ない、また先天的或は後天的愚不具にあらざる限り肉體健全なる以上は一定の條件の下には必らず成功する事が出來やうと思ふ、されど自ら以て愚となせば愚にて止る、兎角今日の成功者は決して俊秀のみではない幼少に余り精神上に發達を來したる者は多くは後に至りて割合に發達せないものである故に人を羨むの必要もなければ自分を歎息するの必要もない、要するに健康は成功の母である、

次に今日は衞生〳〵の聲が四方に高いが、これにも拘はらず患者は續々として出で來るこれまた面白い現象である、生をしてまたこれを一方面より言はしむれば今日の世人が余り衞生を注意し過ぎる結果であろーと思ふ兎角今日衞生の普通の個條はこれまたすべて束縛的で「何は食ふな」「何は食うな」と云ふ事計りで一向何を食へと云ふ事はない固より人間も生物であるから三度の飯の外にも何か要求する時がある、また人生の境遇は轉々と變化するから從つて機會も生じて來る、かく壓制的計りでは理は固より然らしむも實際的に行はるゝべき事でない依て生はこれより實用的に少々述べむと欲するのである、時には不消化物も大に食ふべしぢや

おとしれ可なり、餅可なり芋可なり、一寸考へては只徒らに暴言を吐露する樣であるが決して理のない事ではない常に消化し易き物のみを食用とすれば胃は只僅かの力を以て消化せしむる事が出來る然のみならず長く此調子であれば遂には習慣性を形造りて早や余分の力は不必用になつて來るから從つて胃の作用は自然衰へて來る即ち薄弱になつて仕舞ふ、かゝる胃にもし或る不消化物を與へた日にはその突然の暴客に對しては胃は七轉八倒遂に力及ばず、結果病的變化を起す、反對に時々俗に言ふ馬物を以つて練習せしめたる胃は中々大概の物には犯されない例令漁夫や農夫の强壯に反して日陰の御姫樣的連中の薄弱なるとは同一の食物に對しても天地の差があろー、また昔の人は今日の人の如く病氣に犯されなかつたのでも分ろー、されど常に滿腹にて一定の度を過せば勿論病氣となるは當然だが左樣に極端に偏して貰つては困る、また皮膚に於てもその通り寒に際しては愛子の身の上を憂ひ羽織を重ね股引を着よ足袋を穿けと云ふが實際今日あり勝ちの事である誠に賞せぬ話でこれが爲め子の皮膚を弱く成すは非常なものである一度股引を脱かしめんか早速舞ひ込む風の神熱が出る親は心配する、お醫者に走ると云ふ有樣我等如き用心子にも達せぬ者は一向斯樣な目に逢ふた事はなかつたが諸所の大切な子などには別に珍らしい事でもない、鬼角今日の少年には或る程度までは一方に充分にスパルタ教育は施したいものである、ろれについては我が縣特有の諸所にある學舍が尤も適當して居る殊に又一定の規則の下に在るから禮義武術の点に於ては分けて他縣人に對しても氣焰を吐く事が出來る、次にまた精神の病氣に及ぼす力は莫大なるもので人は往々精神より自ら病氣を發する事が多いが、また精神によりて治する事も多い特に神經性の病に然りとす、一度病魔に襲はるれば精神爲めに挫け自然悲觀に陷るが常である、されど病氣にありながら尙雄風凛々たる者は治療する事も早い、爲に病人は是非病氣に負けぬ氣象を有して居らねばならぬ此の例は度々耳にする事であるが一例を擧ぐれは左の如し

或る病人の枕頭に於て一人の友人が古今の歷史を參照し勇壯活潑に義士を論したりと云ふ、今まで病氣に呻吟せし病人は爲に非常に刺戟せられ已れの病あるも忘れて枕を投げ捨てろの日より斷然床を離れたり以來病氣は日ならずして治療したりと、これ實際經驗せし人の談である固より病氣の性質にも依る事なれど何づれにしても元氣の保持は必要である生は現に病氣に在る人に大に促して止まない大抵の病氣は成る丈け醫者の藥を仰がぬ習慣をつけねばならぬのである

右の條々只不肖の暴言の樣なれど今日の生理學者殊に瀨川醫學博士は此方面に滔々と述べて居る、かく申す半狂自身生れるこゝに三十ぢやなかつた二十有三歲未だ嘗て病なきを耻づと言ひ度いが憚りながら幼時赤痢に犯され、がんに片足踏込むだ事もあつた、されど今は大に此の方針を取つて居る、

詞藻

和歌

朝花　男爵夫人　島津直子

朝日子のかけもまはゆくさしろひて
いよ〻にほへる山さくら花

舟中花　仝　上

行く舟をとゞめぬ人やなかるらん
すたのつゝみの花のさかりは

小金井に遊ひて　濱島茅村

咲く花に長き堤も埋れて
むなしく暮るゝ小金井の里

松上霞　仝　上

行くふねの影も長閑になり渡り
磯馴松に霞かゝれり

（加治木歌會）

順聖公　折田種春

日の本の國のしるしの日のみ籠
造り初たる君ろかしてき

寄烟戀　川畑恒治

吹風になひく烟のすゑならて
うすくなり行人こゝろ哉

夕雲雀　松田仲一郎

夕つゝの影みえろめし大空に
おちんともせす鳴雲雀かな

池邊家　肥後友滿

足引の山下いはのいけ水に
おつるかけひの音の淋しさ

海村鶯　手塚重夫

鶯のこゑも聞えてのとかにも
かすみ初けりいろの家むら

嶋殘雪　岩田敬造

海原の霞のおくにみゆるかな
はなれ小島に殘るしら雪

村上義光　佐藤友樹

宮瀧のひゝきと共に山彦の
聲ころのこれみ芳野の山

澤若菜　森山常子

春あさき雪けの澤に少女子か
もすろぬらして若な摘也

河霞　犬童くに子

さゝれこす波の音のみさやかにて
霞こめたりはるの山川

山吹露　森山まん子

うなゐらか小蝶おふとて山吹の
・花のあさ露ちらしつる哉

新派和歌

放縱　牧曉村

波のごとつよき惱みのつぎ〳〵にわれ襲ひ來よ生をおぼえむ
放縱と懶惰の中に居てなほも何かもとめぬしたゝか者は
酒飲めば涙も流れわかき日のゆくをおくると歌ひ舞ひもす
一人ならずされどいづれも世の常の戀なりければ多くしるさず
胸の客浴びるが如く酒を飲み醉へれど弱き戀を語らず
さゝがにの糸の白露あいわはず二つ四つありぬ秋の風吹く
なり立てるさまも養はれむ曉もゆめ思はずと母われを捨つ
病みほけし夫守り家守り子を育みける母人に子は露も似ず
なほかくて家を思はず古の豫言者めきぬ死して悔なし
青き顔うつし世ならぬ御ひとみ子生まぬさきのわが母かくや
木の葉ゆる木の葉さゆらぐわが心しばやすらはずゆらぐ戀す
世にはぐれさすらはむさま見えもする旅に出るやとかなしき顔す
若き日は才もたのむな名も富も心ゆくらん思出ぐよき
ろの乙女城の如くに仰ぐ人われに泣くゆえ喜ぶといふ
捨て給へ小さき矜持を俗塵の中に抛ちごゝろみたまへ
むかし男變心なせる女にわかき海山越えてさすらひしとか
ほの醉へば涙せぐりき泥醉へばだみ聲あげて歌へる男

漫言

尊德翁と報德

松堂居士

△僕は本誌第五號漫言欄に「尊德翁と自治」と題し少し書いて見たが、今又類似のものを出してすまぬよふだが、僕は實際同翁崇拜者の一人でろして幾度でも鼓吹する價値ある人物と信ずるからである、爾後も翁の事は時々筆にしたいと思ふから今より御斷りして置く、

△まづ翁が現時の社會に依然として謳歌せらるゝ所以のものは何かと云へば、翁は昔時の人と大に趣きを異にしているからである、

△ろれは全体古代の人は、近代に應用の利かぬものであるが、翁に於ては決して然らずで、時代が新しくなつて來れば來る程、應用が利くと云ふことは餘程面白い、

△時に謳歌せらるゝ理由はと云へば、翁は常に道德經濟を主張せられた、そして其言はれたことを實際の上に行なはれたからである、

△世が開くるにつけ財が必要である、財が入用であれば經濟に重きを置かなければならぬ、又經濟の事のみ重視すれば道德は輕視せるゝ、つまり經濟に道德が加はらねば何の役にもたない、

△然るに翁は實際上此両者の調和を行爲に顯はし、人民を助げ、社會を益し、大名を救ひ、町村を興せしなど、今代に於ても極めて切な点多々あることゝ思ふ、

△道德と經濟とを辯論するは易く、實行するは難し、翁の如く此両者を實際上社會救濟に應用したる者は少し

△年々歳々道德にも經濟にも複雜を來すならんも大体の本旨に於て翁を學ぶことは極めて利益僅少ならざるべしと信ドて疑はぬ、

△以上の事と少し話は異なるが此頃二つの愉快な事が加治木にある其一は近來當村の繁榮策論、號を逐ひて駁論やら評論やらがなか〳〵盛んであること、其二は本號雜報欄に載せてあるが如く村有林の增植を計らるゝ當村先輩諸氏の誠意である

△此れ慥かに社會救濟策を實行しつゝあるので尊德翁の報德の趣旨にも相當する譯かと思ひ、僕は衷心欣快の念に堪えぬ、

△人は天地の恩惠に報ゆる爲め、我利本意を主とせず公共の爲め尽瘁するころ眞の天職と思ふ、仍て物質の進歩日々向上すると同時に德義の增進も亦之に伴なはざる可からずと信ず、而して後ち始めて報德の實を擧ぐるを得るであらう。

旗文

非は理に勝事あたはす
理は法に勝事あたはす
法は權に勝事あたはす
權は天に勝事あたはす
天は明にして私なし

楠正成

雜報

◎年始會

各學校官署何れも嚴かに遙拜式を擧げ、次で男子高等小學校庭に於て年始會を催ふせり。一仝の着席するや村長石神氏祝辭を述べ更に仝氏の音頭にて天皇皇后両陛下の萬歳を三唱し奉りて開宴となり各自祝杯を擧げ嬉々の裡に退散せり、本年よりは會員に一々加入名簿を配付したるが出會者無慮四百名に上り例年よりも賑かなる光景なりしゆ最と芽出度〳〵、

◎島津男爵家の御慶事

同家には去る一月二日第二の令嬢御誕生あり、潔子（キヨ）と命名せられ生後頗る健全にあらせらるゝ由、御邸の榮へ行く實に目出度たき極みなり、尙同家よりは仝孃名義を以て本會へ金貳拾圓を寄附せらる、

◎紀元節の祝賀會

紀元の佳節祝賀會は憲法發布二十年紀念祝典を兼ね午前十時より日露戰役紀念碑構内に於て開催されたり、

先つ石神村長の開會辞あり同氏の音頭にて陛下の萬歳を三唱して祝意を表し奉りて開宴し充分の歡を尽して退散せり、只一方中學校落成式ありし爲めにや出席者が例年よりも僅少なりしは遺憾なりき

◎第一艦隊の入港と忠重公の御任官祝賀會

第一艦隊旗艦香取及生駒筑波敷島日進春日の六巨艦は二月一日午後一時半舳艫相含んで入港し錦江灣頭一段の壯觀を添へたり、昨年十二月海軍少尉に新任された島津忠重公には旗艦香取に乗せられ任官後初めての御歸麑なるを以て本縣官民有志は祝意を表せんが爲め二月三日其祝賀會を照國廟の神苑に開催せり、定刻に及ひ主賓忠重公及陪賓伊集院司令長官山田司令官幕僚各艦長の着席あるや海軍々樂と共に式は開かれ阪本知事は會員を代表して祝辞を朗讀し之に對して公爵の謝辞あり次に商業學校女子興業學校各小學校生徒約五千名の「忠重公歡迎」の唱歌合唱ありて開宴となり主客共に十分の滿足を以て閉會せりと、

◎島津公の御通過

島津忠重公には二月四日一番列車より伊集院中將以下各艦長等同伴永野金山へ赴き該鑛山を視察されしが、當驛御通過の際は官公吏員小中學校職員生徒其他有志者は熱誠なる歡迎を爲せり、

◎特志の殖林家

本村にては西別府嶽なる村有林に毎年十餘町歩づゝ杉檜樟等の苗木を植栽されつゝあるが本年既に去月中旬よりこれに着手せり、右に關し大に感ずべきは本誌に屢々報ずたる七十餘歳の岸野七郎翁を始め白尾源太郎桑幡孫七上村與八の諸氏が各々多くの山林を有し殖林家としては一刻千金の好期なるをも顧みず一意公共に盡すの一圖に依り毎歳全所山林に至りて凡ろ一旬日の間山中の民家に起臥し、少壯氣鋭の委員諸氏と共に多くの人夫を督役して聊も勞を厭ふことなく終日之に從事するの一事にて諸翁が村公共の爲めに盡せる功勞は素より後世に及んで其惠澤に浴するに至りては大に感謝すべき事共なり、されば錦江義會は鯛二尾を殖林地に贈りて其勞を酬ひたりと云ふ、

◎縣立加治木中學校落成祝

縣立加治木中學校は去る三十七年二月祝融の爲め殆んど校舍の全部を烏有に歸せしより、年を重ぬる事于茲五、其間仮校舍に於て授業を繼續しつゝありしが、去四十年度より新舍校の建築に着手し、昨年度迄に於て校舍の大部を竣工し、本年一月を次て生徒全部を新校舍に於て授業する事となりたり、由來同校の敷地は全部本村の寄附に係るものにして、昨年度敷地擴張の際にも更に同校東側三千坪を寄附せし等、本村有志の助力せし處尠からざりしかば同校に於ては前記諸氏への披露　旁々今回の竣工を期し、去る二十一日紀元節の佳日を卜し一場の式を擧げたり、今其概況を記せんに午前九時一同席定まるや相良校長先づ式辞を述べ、石神本村長來賓を代表し、岩脇秀二生徒惣代として祝詞を朗讀して式を閉ぢ午前十一時より餘興として同校生徒の運動會を開會せしが、運動の種類は約三十六種にして第一學年生の綱引に初まり何れも勇壯に活潑に演ぜられ就中第二十回各級撰手の競爭には各級の聲援ありて大に人目を引けり、演技終りて萬歳を三唱し閉會せり　此日朝來雨天なりしも午后より漸やく晴れ渡りし爲め來觀者四周人の山を築き頗る盛況を呈せり、次に午后三時より鄉友會議事堂に於て宴會に移りしが、會する者無慮二百余名席定まるや校長の挨拶にて開宴酒三行耳熱するの頃新納海軍大佐の音頭にて同校の萬歳を三唱し各自十二分の歡を盡して散會せしは黄昏の頃なりし、因に同校の工事は四十一年度未成に屬する者生徒扣席百十二坪、柔道場八十四坪にして、尚將來增加を要するものは特別教室四、普通一、講堂一、及寄宿舍等にして、四十二年度に於て建築の分特別教室の二室なりと云ふ

◎加中第八回卒業式

縣立加治木中學校第八回卒業証書授與式は、去る三月十八日午前十時同校の雨天体操場に於て擧行せり、一同着席の上相良校長式辞に次で君ヶ代の唱歌あり、校長は恭しく勅語を奉讀し後証書賞品を授與し、次に相良校長の告辞、阪本知事の告詞、卒業生総代の答詞、來賓島津久賢男の祝辞、卒業生総代の謝辞ありて式を了へたり、當日の來賓は久賢男、阪本知事、新納海軍大佐、久木村陸軍少佐、山口陸軍大尉、兒玉縣參事會員、日高縣視學等にして生徒父兄を合せて百餘名に達したり、

◎各小學校証書授與式

本村各小學校に於ては左記の通証書授與式を擧行せり

三月廿一日　龍門尋常小學校、中野尋常小學校、

仝　廿二日　柁城女子尋常高等小學校、永原尋常小學校

仝　廿三日　柁城男子尋常高等小學校、小烏尋常小學校

卒業生左の如し

柁城男子尋常高等小學校

高等科　五十名、　尋常科　百〇五名、

育英學校　十四名、

柁城女子尋常高等小學校

高等科　三十九名、　尋常科　三十九名、

補習學校　三十名、

◎加治木の陸軍紀念日

三月十日は實に我國民が忘るべからざる陸軍紀念日なるを以て我柁城男子小學校にては全兒童を講堂に集め溝口訓導の奉天占領の實戰談ありて兒童に多大の感動を與へたりと、

午前四時よりは天理教會堂に於て紀念祝賀會の催あり先づ石神村長の開會の辭あり川谷判事の音頭にて大元帥陛下の萬歳並に陸軍の萬歳を三唱し、開宴中中摩順藏氏は起て祝辭を述へ且つ陸海軍紀念日を猶一層盛んに致したしとの意を熱心に述べて滿座の全意を得たり斯くて各十分の快を尽して散會せり、只遺憾なるは此の記臆すべき紀念日を祝するに當り出席者僅に六十名、吾人は村民の冷淡なるを解するに苦む、

◎加治木在郷軍人會

加治木在郷軍人會春季大會は、去る三月二十一日凱旋碑前なる櫻花爛漫たる廣庭に於て開けり、午前は役員改選及び在郷軍人に必要なる事件を議し、午后一時より式を擧ぐ、壹岐會長軍人勅語並に副會長戊申詔書を奉讀し、次に石神兵事會長及び本田支局員溝口副會長の有益なる祝辭演說ありて會員に多大の感動を與へ、式後擊劍試合の余興に移り各會員は各修養せし武術を演ト終つて宴會に移り壹岐會長の音頭にて天皇陛下の萬歳を三唱し、献酬盛に起り和氣洋々十二分の愉快を盡し点燈の頃一同退散せり

◎郡農會の祝賀會

本郡農會にては本縣俵米共進會に於て第一、二回共引

續き成蹟優良の爲め光輝ある名譽旗を授與されたるを以て之を祝賀し併せて益々農民の發奮を促すべく去る二月廿六日午後二時より當地扇和園に於て祝賀會を開催したり式場には金色燦たる國本の名譽旗を飾り大山郡農會長先づ戊申詔書を奉讀して後祝辭と共に農會の覺悟を述べ次に瀨戸山良敏、日野辰次、石神村長、古城郡會議員赤塚滿生村長等の祝詞ありて式を了へ宴會に移りしが二百に餘る會員は老樹の下團をなして杯を擧げ餘興の手踊蓄音機等に歡を盡り宴酣なる頃郡農會の万歳會長の胴揚けなどあり盛況を極めて散會

◎屑繭整理講習會

一昨四十一年本郡農會の主催にて屑繭整理講習會開設され其成績佳良なりしか本年は又姶良伊佐両郡合併の仝講習會三月五日より約五十日間の豫定にて加治木郷友會議事堂に於て開催されたり、抑本會の目的は從來眞綿の原料の外に用途なき同功繭(二ツ繭)小便繭(汚繭)薄繭出殼繭等の如き屑繭を以て繰絲し又は紬に製し以て蚕業の遺利を拾ひ收益を大ならしむるにありと、而して技術熟練せば此等の屑繭より製せしもの殆ど良絲に異ならすと、思ふに近來勞働賃銀著しく騰貴し蚕業の收得之に伴はす蚕業家の困難少からす、故に少費多得の道を講するの必要あるの今日實に適切なる企と云ふべし、其両郡内を益し社會を利するの多大なること信して疑はざる所なり、教師は熊本縣人吉永信子にして西原蚕業講習所修業後十數年斯業に從事し堪能なる人なりと、講習生は三十四名内姶良郡二十二名伊佐郡十一名而して加治木村よりは七名なりと云ふ、

◎蔬菜品評會

柁城男子小學校にては昨年第一回蔬菜品評會を催ふし好成績を得たるが昨年秋季も東京種苗會社より大根蕪及菜の優等種子を取り寄せ之を尋常四年以上の兒童に配與し試作せしめしに各自一層の興味を以て培養し相應の効果を得しを以て一月廿二日卽舊正月元日該品評會を催ふせしに集る者四百余点に上り第一回以上の好成績を上げたり依て本郡技手の評定により紀元節を卜し褒賞授與式を擧げ優等出品者に夫々賞品を與へたりと、

◎新舊郡視學送迎會

前郡視學枝次正春氏が本縣視學に榮轉し其後任として

勝目實憲氏赴任されしを以て去る十二月廿八日午後三時より龍門庵に於て之が送迎會を開く、先づ大山郡長の懇篤なる送迎の挨拶あり次て兩氏交々謝辭を述べて宴會に移りしが豫て趣向を凝らせし園遊會は龍門瀑下白沙林中ビール店ありしる粉屋あり蕎麥屋コーヒー店すもし屋等にて婦女子連の應待振り面白く尙餘興として蓄音機等ありて充分の盛況を添へ和氣藹々の裡主客十二分の歡を盡して退散せしは西陽五老の峯に沒し晩鴉時に歸るの頃なりき、因に當日の出會者は郡内各村長學務委員及校長教員無慮七十余名なりし、

◉教育家の譽れ

本縣知事は去る紀元の佳節を以て左の通り選奬せられたり、

始良郡小烏尋常小學校長　美坂吉之助
熊毛郡栗穗尋常小學校長　大内山精太

右者熱心精勵以て校務を整理し教授訓練其宜しきを得教育上の効績顯著なるを以て金參拾五圓賞與す

◉曾木大尉迎送會

現下高田五拾八聯隊司令部附なる步兵大尉曾木豐二氏は去二月下旬久しぶりに歸省されしを以て、其迎送會は三月五日午後三時より眺望雅致に富める日本山扇和園に於て開かれたり、席定るや本田氏の挨拶に續て曾木氏の謝辭ありて開宴となり祝酬盛んに行はれ、快談所々に湧き、宴將に酣ならんとする頃、大尉の萬歲を唱へ果ては胴揚となり一層の興を添へ非常の盛況を呈し主客十二分の快を盡して退散せり、出會者は大山郡長石神村長川谷制事木佐木大尉相良中學校長臺歲少尉平原警察署長等百余名と算せられたり、因に全氏は激報の如く今般桑幡大佐令嬢の令子と芽出度合衾の式を擧げ親戚知己を招き盛大なる披露の宴を催ふしたるか去月七日新郎新婦は共に任地へ向け出發されたり、

◉曾木大尉の講話

桃城高等小學校にては去月六日男女各生徒の爲め曾木大尉の講話を請しけるが道は軍人の活潑壯語を振て勞頭第一に將來の青年は勇往邁進何れの處に行ても、何の事業に於ても身体强壯ならざる可らざるに付ては小學時代より難易寒暑の厭なく勉めて自衞自强なるを要し第二に自己の用は自ら所辨するの習慣所謂獨立自營の精神を幼少の時代より養成せざる可らず、第三に本縣人の特色たる長幼序を正しくするの善行は決して時勢の惡風に毀れず永久に存續すべしの意を熱心に述べ兒童に多大の感動を與へたり、

◉宮内杉田兩醫院の擴張

當地の刀圭家宮内盛直氏は近來患者數頓に增加し、從來の醫院にては狹隘を告ぐるに至りしを以て昨秋來警察署前蛭子湯隣りに醫院新築中の處、既に竣工し去る三月二十七日より移轉診療に從事しつゝある事なるが該建物は和洋折衷の建物にて特に外科室の如きは同氏が管病院視察の結果に係る者とて、聊か間然する處なく慥かに當地衛生界の一裝飾たるを失はず

同じく杉田平助氏には今回陸軍三等軍醫正小林醫學士を院長に聘し從來の醫院を擴張し專ら耳鼻咽喉科内科の診療に從事せらるゝとの事なるが當地刀圭家諸士が實力を惜まず其道の爲め盡瘁せらるゝは賊に嘉すべき事なりとす。

◉性應寺の上棟式

醫村下今町の性應寺にては、寄捨金壹萬圓内外を以て庫裏の新築工事に着手せし處、去る二月六日午前十時より上棟式を擧行し、安滿住職の挨拶に次で大山郡長の謝辭あり、終つて祝宴に移り餘興として藝妓の手踊等あり、近來になき盛況を極めたるが、當日の來賓は大山郡長、平原署長を始め男女一百餘名、其他の門徒を合すれば無慮數千名に達したりと、

◉伊集院訓導の退職

育英學校訓導伊集院秀彦氏は明治三十八年五月赴任せられし以來茲に殆と四年、英俊の才、溫厚の德を以て職務に拮据勉勵し同僚の信賴兒童の敬服淺からず、且つ我同鄕會員として讀者として本會の發展を助成せらるゝ所少からざりしに、今般病氣の爲其職を辭せらるゝに至りしは實に遺憾の極なり、記者は茲に謹て君か快復を祈ると共に從來の功勞を謝し且つ將來の愛顧を希ふ、

◉本村各小學校教員の異動

中野尋常小學校長宮内精二氏全教員上山シケ氏は龍門尋常小學校へ桃城男子校教員古江新藏氏は全しく龍門校へ龍門尋常校教員永長ツカ氏は桃城女子校へ全德永金次郎氏は中野尋常校へ鶴城女子校教員濱田直一氏は

桜城男子校へ何れも轉勤を命せられ川元親惠氏は桜城男子校教員を命せられたり

◎藤安吳服店の賣出

鹿兒島市藤安吳服店には去る舊正月二日より七日間當地蒲生田邊に假出張店を設け吳服太物の賣出を試みたるに非常の好評を博し賣出中は來客絶間なく僅々七日間に於て數千圓の巨利を占めたりとの事なるが、右は畢竟店員の機敏にして接待振りの宜しきを得たると、賣價の比較的低廉にして客の嗜好に投せん事を努めたる等重なる原因なるべし、因に同店に於ては近日中更に同樣の催しを目論見つゝありとの事なるが當地商人たる者大に鑑みる處なくして可ならんや

◎本縣事務官の死去と新任

本縣事務官警察部長齋藤美知麿氏は去月病死せしが其後任には山梨縣事務官佐竹義文氏新任せり、

◎八幡宮の觀櫻會

實業新聞社の主催にて三月廿一日午前の臨時汽車にて鹿兒島出發八幡宮神苑の觀櫻會企てられしに參會者多く手踊棒踊奇術講談等の餘興も演ぜられ非常の盛況を呈せりと云ふ、

◎櫻花盛りの雪

到る處の櫻花正に爛漫、人皆花觀に狂するの好季節に於て三月廿六日來俄かに寒冷を催ふせしが翌二十七日曉天よりは霰交りの白雪霏々として降り雪と櫻を全時に見るの奇觀を呈し實に當地方稀有のことなりき、

◎姶良郡歲出豫算書

過常郡會の議決を經たる四十二年度姶良郡歲出の要領を聞くに左の如し、

一、經常部　金貳千四百五拾七圓貳拾參錢

一、臨時部　金七千拾七圓參拾七錢壹厘

內譯

勸業費參拾圓

教育補助費千貳拾參圓五拾貳錢

衛生補助費貳百五拾五圓

歲出總計金九千四百七拾四圓六拾錢壹厘

◎長者議員の死去

附縣下の多額納稅者

貴族院多額納稅議員鄰內庄右衛門氏は去一月二十九日東京に於て急病の爲死去せり、されば不日其補欠選擧執行せらるべきが去二月廿六日を以て告示されたる多額納稅議員互選資格者は左の如し、

五千九圓拾參錢	市	岩元	信兵衛
參千六百五拾五圓六拾八錢四厘	市	野上	佐太郎
參千四拾五圓拾五錢	市	山下	喜兵衛
貳千貳百八拾九圓七拾七錢	出水郡	中山	友太郎
貳千貳百參拾六圓拾參錢	薩摩郡	神崎	桑次
貳千五拾壹圓五拾七錢六厘	囎唹郡	中山	嘉兵衛
貳千貳拾貳圓八錢	日置郡	海江田平・治	黑松　清兵衛
千八百六拾貳圓十六錢	市	姶良郡	森　安之助
千八百貳拾七圓參拾參錢	姶良郡	佐藤平右衛門	
千七百參拾五圓七拾八錢	日置郡	元山　藤兵衛	
千六百貳拾五圓六拾八錢	肝屬郡	岩元　吉太郎	
千五百五拾四圓四拾四錢	市	藤武　喜兵衛	
千五百四拾四圓六拾壹錢	薩摩郡	岩月　直彥	
千五百參拾參圓拾七錢六厘	出水郡	白石　德次郎	
千四百六拾貳圓參拾四錢			

◎加治木驛狀況

當加治木驛は旅客貨物等年々增加の好況を呈し乘降客の如きも當線中常に第三位にあり、肥薩線全通の曉は其成績尙倍加し鹿兒島驛の次位を下らざるべしと一般に豫想せらる今四十、四十一年中當驛の收入金乘降人員及貨物發着噸數を比較揭記すれば左の如し

	四十年	四十一年
收入金	貳萬貳千〇拾八圓五拾四錢	貳萬貳千五百五拾四圓五拾錢
乘車人員	九萬四千四百九拾五人	九萬七千四百七拾八人
降車人員	九萬八千七百貳拾七人	九萬八千參百五拾四人
發送貨物噸數	貳千九百參拾四噸	貳千九百四拾七噸
着貨物噸數	貳千貳百五拾噸	貳千九百五拾五噸

◎電話開通

多年の宿願たりし加治木都城蒲生鹿兒島間の電話は去る二月一日より開通せられたるが取引頻繁なる商人は元より其他も爲めに多大の便利を得るに至れり、料金は加治木鹿兒島間呼出料拾錢、通話料拾五錢、加治木蒲生間呼出料拾錢、通話料拾錢、都城加治木間呼出料拾五錢、通話料貳拾錢なり、而して當地電話呼出地域は大字加治木、同反土字は下濱町、西町、中町、今町、横町、天神馬場、新町、江湖町、西ノ口、蒲生田町、

端山、諏訪馬場、小陣、新道、柳田、向茶屋、田中、竹下、萩原、大字本田は東塩入、西塩入、向江町、吉祥寺馬場とす

◎美事一束

◎高麗しげ子は母はる嗣子重雄の五十日祭費を節し金五拾圓を加治木小學校基本金へ、亦重雄氏遺難地の知名村及和泊村の両小學校へ金拾圓づゝを寄附せらる

◎岸野七郎氏は本紙造林費として金拾圓を寄附せらる

◎在韓老山戸之助氏は月頂鶴剝製雪鶴を柁城男子小學校へ標本として寄贈せらる

◎大童英輔氏は柁城女子小學校庭園の棚用として杉材十數本を寄附せらる

◎各學校入學と卒業

▲入學の部

本村小學校生徒として加治木中學校入學者三十二名

伊地知季澄　有馬純三　西田敬二　帖佐清　酒匂廣二　小濱氏清　酒匂清　樋木勝治　小野直彦　安瀬丁榮　木佐木正男　市來政經　岩崎五男　有馬慶二　石坂正氣　貫冑榮　新名仲二　田中彦藏　桑幡常行　田中義保　柚木國夫　原田定雄　築瀬連　是枝快彦　竹下孝　美坂金治　木場操　飯牟禮道雄　中摩秀清　兒玉忠　日高敬藏　山上正義

高等女學校入學者二名

柚木イツ　正村アイ

山口高等商業學校入學者一名

園田靜夫

▲卒業の部

福岡醫科大學卒業者一名

市來新一

東京女子高等師範學校卒業者一名

德永なみ

山口高等商業學校卒業者二名

壹岐筆太　重久定志

長崎高等商業學校卒業者一名

山崎秀清

盛岡高等農林學校卒業者一名

池田彪一

鹿兒島壽常師師學校第二部卒業者一名

城敬治郎

鹿兒島商業學校卒業者二名

吉井常助　佐藤岩太郎

鹿兒島高等女學校卒業者三名

市來クニ　枝元カヌ　石原ヒデ（補習科）

鹿兒島鶴嶺女學校卒業者二名

郡山ツマ　原田タカ

加治木中學校卒業者十三名

新名常造　入代祐吉　市來政清　園田靜夫　美坂甚右衛門　川元親惠　原田平治　桑幡健　宮園金右衛門　伊藤敬夫　白尾國威　樋木盛吉　美坂義熊

讀者の聲

▲藏王岳の頂邊に愛宕樣の御轉座を願つたら奈何？御利益たちどころに現はれて天下の名山となること大賢ゆめ疑ふべからず（信心生）▲加治木町の軒燈一件は幾度も發議されたる事だが一向頓着がないようだ、此際是非奮つて實施して貰ひ度いもの哉（切望生）▲陸軍紀念祝賀會は出席者稀く少く寂しかつた樣だが遺憾至極ならずや我等が今日此の太平の代にあるのは何の御蔭か恩元通れば暑さ忘るゝ樣では駄目だ、鹿兒島邊りでは婦人も學生も式に列し中々盛んな樣だが我加治木も他にまけぬ樣に何とか工夫したい者だ敢て各位の猛省を促す、、、、特に軍人諸君教育家諸公先輩諸賢に、（憤慨生）▲我輩大々的賛成を表す斯る祝典には男女老幼の別なく村民一般列席し餘興として花火も揚くべし棒踊もやるべし何んでも遠慮は御無用斯くて初て國民的祝日たるを得へしたゞ（編輯小僧）▲私は加治木の古い俗歌を聞きたい此俗歌は何處の國にも少しづゝあるものでなかく面白い本欄迄知らせて下さる人があれば此上の仕合せであります（在麓粹士）

會報

◎會員動靜

○特別會員日高彦市氏は日置郡視學より本縣視學に榮轉

○特別會員大坪新八氏は此程幾須賀海軍運用學校卒業

○法學士原田維織氏は去る二月中旬鹿兒島市玉利たま子と結婚仝月下旬東上

○特別會員會木健二氏は先般原田わか子に入夫の約整へりとふ

○特別會員松田德志氏は過日竹内もと子と結婚

○本誌編輯委員宇都宮虎二氏は去る三月八日鹿兒島市荒田村本脇藤次郎氏令孃貞子と結婚

○多年在京中なりし會員宇都宮勝平氏は去る一月歸村

○法學士會木新三氏は過日來歸村中の處三月上旬再び上洛

○特別會員小濱重吉氏昨年來歸村中の處今般橋濱正金銀行員として清國營口支店に赴任

○永長漸之丞氏は此程渡清

○津崎直志氏は加治木育英學校教員に、上野初枝氏は小島尋常小學校教員に、宮内ソメ子は帖佐村管原尋常小學校教員に、稻恒トモ子は清水村尋常小學校教員に何れも拜命

○鹿城小學校教員津崎喜右衛門氏は宿痾の爲め此程退職

○德永なみ子は本縣立高等女學校教諭に任命

○清水高等小學校教員たりし肥田仙三氏は去月專賣技手見習として採用せられ樟腦部在勤

○白尾國藏、園田靜夫、桑幡健の三氏は去月下旬遊學の爲上京

○四十五聯隊附陸軍中尉赤崎眞一氏は、去月下旬同聯隊韓國守備兵として渡韓

○二十三聯隊付少尉入枝佐吉氏は右同、

○岩崎剛氏は先般來大連市衛生組合事務所在勤

○原田經一氏は宮之城村二階堂氏令孃と四月上旬結婚

○會員平山彌一郎氏夫人は久しく病氣中の處去月廿七日死去

○東襲山村小學校訓導木通重太郎氏は山田村北山宮脇尋常校長に榮轉

○代議士柚木慶二氏は議會閉會の爲め四月三日歸縣

○會員の轉宿左の如し

東京赤坂區青山南町五ノ八四　原田維織君
佐世保軍港水雷艇隊　長井清君
佐世保市祇園町八拾番地　柚木彦藏君
鹿兒島縣廳內　日高彦一君
佐世保軍港軍艦笠置　大坪新八君
日向國兒湯郡高鍋稅務署　小川仁右衛門君
縣下川邊郡知覽松ヶ浦松崎方　竹下貞一君
韓國黃海道新溪步兵第二十三聯隊第六中隊　永原新助君
16. Cotleigh Road, West Hampstead, London, England.　濱田精藏君

◎本會の基本金寄附者氏名錄

（第八回申込順）

金貳拾圓（男爵令孃）島津潔子　金拾圓八錢　生駒甚太郎君
金五圓　上野精之進君　金五圓　小川仁右衛門君
小計金四拾圓〇八錢

通計金九百八拾七圓七拾貳錢也

◎雜誌代領收

一金壹圓宛　井手誠助、白濱傳之進、伊丹丈四郎、市來平治、市來操、會木隆興、山上貞武、川上吉之助、壹岐志都城、前田梓、梅木太右衛門、竹下仁右衛門、梅木太吉、の拾參名

一金八拾錢、長瀨三之丞君

一金六拾錢宛、圖師政次、壹岐桃治、入枝佐吉、兒玉合十郎、上園幸助、下楠園仲太郎、四元莊助、岡山秀助、川畑藏助、岡山秀延、岩崎俠、上志島源助、白尾稻助、日高直助、岩下一郎次、宮內精二、白尾源太郎、是枝三吉、有川貞雄、、伊地知季喜、白尾節志、竹下貞治、木場政彦、前田國友、松本仲四郎、尾上英藏、楠元彦市、長井虎造、鬼塚廣志、下津佐正志、松山平助、前田武雄、佐藤彦一の參拾參君

一金五拾五錢、溝口直記君

一金五拾錢宛、高橋喜助、有川勇助、松永英一、二見金喨、入枝慶四郎、前田平藏、有木勇次郎、園田鶴次郎の八君

一令參拾錢宛、宮路直太郎、古江新藏、鈴木正次郎、法元チカ、川邊巳之助、伊丹親幸、川原權太郎の七君

一金拾五錢、西田武彦君

小計金四拾圓四拾錢

合計金貳百五拾六圓貳拾七錢也

◎在外本紙講讀者住所氏名

（申込順其七）

伊豫國三津ケ濱町　岡山　與三次
宮崎縣廳內務部　白濱　傳之進
在韓歩兵第廿三聯隊第二中隊　入枝　佐吉
22SE. first st Losangeles cal. U. S. A.　生駒　甚太郎
425W. 6th st Losangeles cal. U. S. A.　鬼塚　廣志

◎同鄉會規則摘要

第一條　本會は加治木同鄉會と稱し加治木人及加治木に緣故ある者を以て之を組織す、

第三條　本會の主旨を貫徹する爲定期に總會を開き又は雜誌を發刊して會員に配付するものとす但雜誌の配付は當分の間會費として毎月金五錢を醵出する者及第十六條に該當する會員に限る、

第十四條　本會は雜誌「柁城」を四季に一回づゝ之を發行す

第十六條　本會に金五圓以上寄附したる者は特別會員とす、

◎寄贈書目

一、九州の成功家壹冊　是枝　三吉君
一、燕塵　第貳號拾貳號　野田　昇平君
一、The Freeman's Journal.　湯田　仲二君
一、隼人　第二號　仝

右書目芳名を掲け其厚意を謝す

會告

一、次號（第九號）の原稿〆切は六月十五日限りに御座候
一、會費未納の方は至急御納付被下度候
一、會員の御異動は一々御報煩はし度候
一、御送附の原稿にして編輯の都合により延期致し候向きは御宥恕被下度候

明治四十二年四月十一日印刷
明治四十二年四月十五日發行

非賣品

編輯兼發行者　鹿兒島縣姶良郡加治木村反土九十四番戶　本田　克
鹿兒島縣姶良郡加治木村反土四百九十三番戶
鹿兒島新聞社加治木支局內

發行所　加治木同鄉會事務所

印刷人　鹿兒島縣鹿兒島市鹽師町八十九番戶　北川右之丞

印刷所　鹿兒島縣鹿兒島市山下町百七十一番地　鹿兒島新聞社